

2025年度JICA横浜 教師海外研修 報告書

研修国：パラグアイ共和国



撮影 2025年教師海外研修同行者

目次

教師海外研修について

教師海外研修とは	3
研修日程	4
海外研修国の概要	5
参加者一覧	6
海外研修日程	7
参加者の訪問先所感	8

実践報告

特別支援学校(1名)

庄所美紀	「パラグアイの伝統舞踊「ポトルダンス」」	20
<small>(横浜市立本郷特別支援学校)</small>		

小学校(2名)

高木佳代子	「オンライン交流会 Be friends! パラグアイの友だちのことを知ろう!」	24
<small>(藤沢市立駒寄小学校)</small>		

野木佳保	「気になる木」	32
<small>(横浜市立左近山小学校)</small>		

中学校(4名)

上野真理	「私の願い事」	36
<small>(相模原市立旭中学校)</small>		

江川由香里	「他者を知る」	42
<small>(平塚市立神田中学校)</small>		

小林和貴	「相手の背景を考えよう」	48
<small>(相模原市立串川中学校)</small>		

廣瀬祐市	「気になる木」	52
<small>(富士河口湖町立河口湖北中学校)</small>		

中等教育学校(1名)

中塚圭二郎	「気になる木」	57
<small>(神奈川県立平塚中等教育学校)</small>		

高校(2名)

小松明美	「Understanding Others Through a Tree」	62
<small>(川崎市立川崎高等学校)</small>		

堀谷沙貴	「『私の願い』～移民ってどんな人? 相手を知ろうとすると、面白い～」	70
<small>(横浜市立みなと総合高等学校)</small>		

※この報告書に掲載されている意見は、本研修参加者によるものであり、JICAを代表するものではありません。
※参加者の所属等は、2025年度のものであります。

教師海外研修とは

1. 教師海外研修の目的

本研修は、国際理解教育や開発教育に熱心に取り組んでいる神奈川県・山梨県の教員や教育委員会指導主事等の皆さんを対象にした、国内事前研修、海外での現地研修、国内事後研修で構成される国際理解教育・開発教育実践のための研修プログラムです。訪問する国の歴史、現状、人々の生活、国際協力などについて学び、国際理解教育・開発教育の実践者育成と推進を目的としています。

2. 研修概要

本研修は、開発途上国の社会・教育事情や開発途上国で行われている様々な国際協力活動の現場視察(海外研修)と、海外研修の前後に行う国内研修(事前/事後)の2つのプログラムから成っています。国内研修(事前)では、海外研修への準備としてワークショップ体験、素材収集の方法・教材研究等を学びます。国内研修(事後)では、所属校内での報告会・研修会や、地域での勉強会・部会などにおいて、積極的に本研修での学びを生かし国際理解教育・開発教育の推進を行い、次代を担う子どもたちの育成のすそ野を広げていただくための施策を考えていただきます。

3. 2025年度のテーマ「多文化共生・移民」

中南米は多様な文化や価値観が存在する地域です。なかでもパラグアイは、混血が進んでいる一方、グアラニー先住民文化が残り、ドイツなどの欧州や日本等からの移民を通じて、独自の多様性が築かれています。日本人のパラグアイ移住は1936年から始まり、現在は7,000人ほどの日系人(日本国籍者および2・3・4世含む)が暮らしていると言われています。かつて新しい土地へ移住した人たちの体験、代々子どもたちへと受け継がれてきた語りや史料、そして今を生きる人々の生の声から、日系人の困難、喜び、誇り、活躍などを学ぶことは、多文化共生の在り方を考える糸口になり得ます。日系人を含むパラグアイの多様性の事例から、日本の、地域の、学校の、教室の多文化共生について考え、実現に向けた手だてとしての教材、発信方法・手法について考えていただきます。

本研修の学びをいかして学校内および地域において国際理解教育の推進、子どもたち育成の推進をしていただくことをねらいとします。

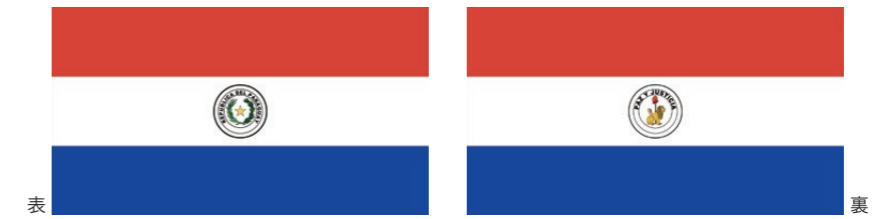
4. 応募資格

神奈川県と山梨県の学校現場で国際理解教育・開発教育に取り組んでいる、または関心を持ち、国内・海外の研修および報告会の全日程に参加可能な教員等で、所属長の推薦が得られる方。

研修日程

研修名	場所	日程	内容
国内事前研修①	JICA横浜	2025年6月21日(土)	・本研修概要 ・派遣国 ・視察先の説明 ・海外研修準備 (渡航手続き、健康/安全管理、素材収集の方法)
開発教育教員セミナー (基礎編)	JICA横浜	2025年7月5日(土)	・開発教育の基礎概念等 ・教材研究の方法
国内事前研修②	JICA横浜	2025年7月12日(土) 13日(日)	・開発教育のワークショップの体験 ・教材研究の方法 ・前回参加教員との交流
海外研修	パラグアイ	2025年7月25日(金) ～8月8日(金)	・開発途上国の現場体験 ・教材研究のための素材収集
国内事後研修①	JICA横浜	2025年8月30日(土)	・研修先で得た素材の整理 ・教材、発信方法等の検討
国内事後研修②	JICA横浜	2025年9月13日(土)	
実践授業	所属先	2025年9月 ～2025年12月	・各所属先における授業実践等
開発教育教員セミナー (応用編)	JICA横浜	2026年1月17日(土) 18日(日)	※実践授業報告も行います。 ・開発教育のワークショップの体験 ・参考事例発表
最終報告	※	2026年2月～3月	・研修全体の学びの共有、報告

海外研修国の概要



パラグアイ共和国 (Republic of Paraguay)

首都：アスンシオン
面積：40万6,752平方キロメートル(日本の約1.1倍)
人口：約684万人(2023年、世銀)
民族：混血(白人と先住民)95%、先住民2%、欧州系2%、その他1%
言語：スペイン語、グアラニー語(ともに公用語)
宗教：主にカトリック(信教の自由は憲法で保障)
政体：立憲共和制



主要産業：農業、製造業(自動車部品など)、電力
GDP(名目)：429.6億ドル(2023年 世銀)
一人当たりのGDP：6,260ドル(2023年 世銀)
経済成長率：4.7%(2023年 世銀)
通貨：グアラニー

経済概要：経済は、農牧畜業と電力が輸出総額の8割以上を占めており、アルゼンチン、ブラジルの経済状況に依存している。日本人移住者がその発展に大きく貢献した大豆(輸出量世界3位)やゴマ(同14位)のほか、トウモロコシ(同8位)、コメ(同6位)、マテ茶(同3位)、骨なし牛肉(同8位)等の供給国である(データはいずれも2023年FAO)。近年、積極的な外資誘致策、低い税率、安価な労働力や電力等を背景に、自動車部品等製造を中心に、日本企業を含めた外国企業の進出が活発化している。

日本の援助実績(2022年度までの累積)：(1)有償資金協力1,732.13億円
(2)無償資金協力413.73億円
(3)技術協力913.30億円

主要援助国(2021年：支出総額、単位：OECD/DAC)
：(1)日本(44.93百万ドル)(2)韓国(30.83百万ドル)(3)フランス(30.64百万ドル)
1976年以降、2004年、2011年、2014年、2020年を除き、日本が最大の援助国。

在留邦人数：3,778名(2024年10月、外務省海外在留邦人数調査統計)

在日パラグアイ人数：2,290名(2025年6月末、法務省在留外国人統計)

二国間条約・取極：1959年 移住協定
1978年 海外青年協力隊派遣取極(2021年 改正)
1979年 技術協力協定
1989年 移住協定改定(効力無期限延長)

(外務省ホームページより)

海外研修参加者

	氏名	学校名	学年 / 担当教科
1	上野 真理	相模原市立旭中学校	2年 英語
2	江川 由香里	平塚市立神田中学校	2年 社会
3	小林 和貴	相模原市立串川中学校	1年 数学、理科
4	小松 明美	川崎市立川崎高等学校(全日制)	3年・進路専属 英語
5	荘所 美紀	横浜市立本郷特別支援学校	小学3年 全教科
6	高木 佳代子	藤沢市立駒寄小学校	外国語 3, 4, 5, 6年
7	中塚 圭二郎	神奈川県立平塚中等教育学校	1年 英語
8	野木 佳保	横浜市立左近山小学校	個別支援学級 全教科
9	廣瀬 祐市	富士河口湖町立河口湖北中学校	1年 理科
10	堀谷 沙貴	横浜市立みなと総合高等学校	3年 地歴公民科
11	鈴木 理紗	JICA横浜	
12	福田 訓久	株式会社メディア総合研究所	

(五十音順 / 所属等は2025年3月現在)



海外研修日程

日		訪問先	
2025/7/25	金	午後	成田空港発
2025/7/26	土	午前	ドーハ空港にて乗り継ぎ
		午後	サンパウロ グアルーリオ空港にて乗り継ぎ
2025/7/27	日	午前	アスンシオン到着
		午前	ホテル周辺散策～打合せ
2025/7/28	月	午前	JICAパラグアイ事務所(挨拶、ブリーフィング)
		午後	MIDORI 工房訪問 振り返り会
2025/7/29	火	午前	【協力隊】NIHON GAKKO訪問
		午後	【技術協力】パラグアイ宇宙庁(AEP)訪問 (社会経済開発に向けた宇宙計画管理プロジェクト) 振り返り会
2025/7/30	水	午前	サン・ファン・パウチスタへ移動
		午後	【協力隊】Escuela Basica No. 1109小学校訪問 振り返り会
2025/7/31	木	午前	エンカルナシオン日本人会表敬挨拶 日系アイデンティティーセンター訪問
		午後	中間ふりかえり会 エンカルナシオン日本語学校訪問 移住者との意見交換会
2025/8/1	金	午前	ラパス日本人会表敬挨拶 移住資料館見学 農協見学(製粉工場、飼料工場、売店) 日本語学校教員との意見交換ランチ
		午後	【協力隊】ラパス日本語学校訪問 隊員との意見交換会 ホームステイ
2025/8/2	土	午前	ラパスにて餅つき交流会
		午後	道の駅(施設見学、市長による説明) ドイツ移民博物館 Centro Historico Cultural "Edwing Krug"訪問 トリニダー遺跡訪問 振り返り会
2025/8/3	日	午前	アスンシオンへ移動
		午後	振り返り会
2025/8/4	月	午前	【技術協力】【協力隊】 国家障害者人権庁 SENADIS訪問 (障害者の社会参加促進プロジェクト)
		午後	【JICA基金】パラグアイ伝統工芸品ニャンドゥティ・ブランディング事業 ニャンドゥティ工房訪問 振り返り会
2025/8/5	火	午前	レプブリカ・グアテマラ学校訪問
		午後	JICAナショナルスタッフとの座談会 振り返り会
2025/8/6	水	午前	事務所報告会
		午後	セントロにて教材収集 アスンシオン空港出発
2025/8/7	木	午前	サンパウロ空港にて乗り継ぎ
		午後	ドーハ空港にて乗り継ぎ
2025/8/8	金	午後	成田空港到着

参加者の訪問先所感

1日目：7月25日 金

● 日本出発

飛行機に乗る前に「今の気持ち」を付箋に書いた。事前研修などでパラグアイについて学んできたが、いよいよ出国の日。それぞれの思いをシェアした後、まずは、カタールのドーハに向けて出発。(上野)



成田空港にて、事前研修時の付箋を見ながら自分の気持ちと向き合いました

2日目：7月26日 土

● ドーハ空港～サンパウロにて1泊

「さあ、ここはどこでしょう？」と質問したくなるような場所。成田空港から約11時間のフライトを経てドーハ空港に到着した。午前3時頃の到着というのに、空港内はどこを見渡しても照明がガラガラしていて、ハイブランドのお店が軒を連ねていた。一方で、立派な森林郡エリアは異空間を放ち、空港内ではコーランが流れる。そんな空間のなか、私たちは各々の研修におけるミニテーマを共有し合い、いよいよ海外研修が始まったという実感を抱いた。



サンパウロ空港にて元気に記念撮影

その後、約15時間のフライトを経てサンパウロに到着。ホテルで休憩してから空港内を探索。緑と黄色のブラジルカラー、動植物をモチーフにした民芸品にひと際目を引かれ、店員さんからの「Obrigada」の言葉にブラジルにいるんだという実感と、もうすぐパラグアイだ！という思いが沸き起こった。(江川)

3日目：7月27日 日

● 空港からホテルへ

私達は長時間のフライトを終えて、目的地であるパラグアイの首都アスンシオンに到着した。現地では JICA 職員が空港でお出迎えをしてくれた。今まで、通過して

きたドーハやサンパウロの空港と比べるとこじんまりとした空港であるように感じた。バスに乗り込み、ホテルへ向かう道すがら昨日から降っていた雨の影響で道中の至所に水溜りがあることに気づいた。あとから聞くと、都市として排水機能があまりできていないとのことであった。街並みを見ていると、初めての地であるからか、それとも日本と比べたときの発展具合なのか、そこはかとない不安感を感じた。(小林)



雨上がりのホテル周辺の道路

● ホテル周辺

近くの大型ショッピングセンターで両替を行った。そのショッピングセンターで昼食をとったが、日本の物価とそこまで変わらず、驚いた。夕食はパラグアイの文化でもあるアサドであった。パラグアイでは、週末(必ずしも毎週末ではないらしい)に家族とお肉を焼いて食べるということで、それに習い私たちもお肉を食べた。パラグアイの文化に触れることができた瞬間だった。(小林)



名物のアサドをいただいた

4日目：7月28日 月

● JICA オフィスにてブリーフィング

最初の訪問先である JICA パラグアイオフィスへ。まず、自己紹介と研修に際しての抱負を述べ、団長より挨拶を行った。前日のドーハ空港で個々人がプチテーマを考えて共有する機会があったため、それぞれの持つ「想い」をしっかりと伝えることができた。その後、次長およびナショナルスタッフより、JICA パラグアイの国際協力の取り組み、パラグアイの日系社会、そして危機管理について説明を受け、質疑応答を行った。特に、日系2世である職員の方々に、パラグアイで生活をしながら日本の文化を保持しているという感覚について伺えたことは、その先の学校訪問などに向けた基礎理解を深める上でとても助けになった。(小松)



JICAでのブリーフィングの様子

● MIDORI 工房 視察

当工房の設立者がパラグアイへ移住することになった経緯から、そこで事業を行う苦悩と喜びについて伺った。パロサントという木の廃材を活用し、日本人デザイナーと現地職人が協働して作品を生み出すこと

で、持続可能な在り方を模索しているという。その姿勢は、移住して暮らす日系人の歩みとも重なるように感じられた。当初は日本のルールや価値観を重視して接していたが、パラグアイ人の考え方を面談を通じて理解し、経営者自らが歩み寄ることで「信頼」を築いていったという。お話の中で特に印象に残ったのは、「異文化と異人種が集まると相乗効果が生まれる」という言葉だ。これは、相手の文化への敬意があってこそ成り立つものであり、「多文化共生」を考える上で重要な示唆を与えてくれるものだと感じた。(小松)



設立者からの説明をうけている様子

5日目：7月29日 火

● NIHON GAKKO 訪問

NIHON GAKKOに到着すると、生徒たちがパラグアイと日本の国旗を掲げ花道を作って、私たちを大歓迎してくれた。NIHON GAKKOは、国費留学生として日本で学んだオルテガ夫妻が、“規律正しい、正直、平等”といった日本の精神に感銘を受けて創立した私立一貫校。地球の反対側でそんな熱い想いを抱いて日本語や日本文化をカリキュラムに取り入れてくださっていることを知り、日本のことがとても誇らしく思えた。

授業見学では、中学生の社会や数学を見学させてもらったが、どの生徒も真剣に授業を聞いてノートに書いていた。それから JICA 海外協力隊員が指導する小学6年生の体育の授業ではピッチャーのいない野球型スポーツであるティーベースをし、その後じゃんけん列車やけん玉などを一緒に行った。児童たちがとても熱心に楽しそうに取り組んでいて、微笑ましかった。(荘所)



「じゃんけん列車」を楽しんでいる様子

● パラグアイ宇宙庁 (AEP) 訪問

午後訪問したパラグアイ宇宙庁では、JAXAや九州工業大学と連携して研究を続けている研究員の方々から興味深いお話をたくさん伺った。パラグアイは、農業国で洪水のリスクのある国なので、野菜の品質管理・成長記録のため、また自然災害を防ぐために衛星データを活用しているとのことだった。研究員の中には JICA の支援を受けて日本で研究をして来た方も多く、とても親日的で日本への感謝が強いという印象を受けた。

また、パラグアイ国立大学内に併設されている夢とロマンが詰まった宇宙庁の研究室も見学させていただいた。ここでは主に宇宙衛星の研究がされている。研



研究員たちとの記念撮影

究員の方々は、将来のパラグアイを担う子どもたちに宇宙に興味を持ってもらいたい、次回の宇宙衛星放出を成功させたいなど、とても生き生きとした表情で熱い想いを語ってくれた。(荘所)

6日目：7月30日 水

● 学校訪問

アスンシオンのホテルをチェックアウトしてサン・ファン・パウチスタに向かう。途中、ドライブインで食事をする。私達の近くにいたカップルは、テレビを楽しんでいた。テレビとはマテ茶を回し飲みする文化であり、この国の人々の生活の一部である。午後 Escuela Basica No. 1109 小学校に到着。今日は「Dia del Amistad ~友情の日~」。小学校では、友情の日のセレモニーに参加するのだ。

校内に入ると、中庭のような場所に全校児童が集まり、セレモニーが始まっていて全校生徒が歌っていた。正面の子が国旗を掲げていたから、国歌なのだと思う。子どもたちは、私達を見て笑顔で手を振って出迎えてくれた。私が全校児童へのあいさつの中で、「みんな、ドラえもん知ってる?」と問いかけたところ、多くの子どもが元気よく手をあげた。続いて、ドラゴンボールやナルトも聞いてみたが、またまた大歓声。日本のアニメはパラグアイの子どもたちにも愛されていることを知り、すごく親しみを感じた。

私が見学した5年生のクラスでは、始めに宗教の授業が行われていた。友情について神の教えを説いていたようである。先生がずっと神様のお話をするのを、子どもたちはよく聞いていた。30分位した後、別の先生がやってきて、ギターを取り出して歌い始めた。音楽の授業になったようだ。楽しく歌った後は、音楽史のようで、テレビ画面で音楽ビデオを見る時間だった。出てきた音楽家は私ができるものでは、クイーンとビートルズだったが、その後もロックバンドやフォークグループの映像が続いた。

音楽が終わった後、日本のあそびタイムがはじまった。折り紙でコップを作り、「テレビで使うね!」と言ったら、みんなうなずいて、お茶を飲むふりをしてくれた。その後、折り紙グループとけん玉グループに分かれてさらにあそびを楽しんだ。他のクラスに行ったメンバーは、歌、新聞紙工作、福笑い、タペストリー作成、あやとり、こま、習字を子どもたちと行った。

そして、友情の日恒例のプレゼント交換。友達の特徴をクイズのように言い、自分だ!と思った子が前に出てくるというルール。まず先生が「髪が短くて、サッカーが得意な人」というと、みんなが「○○?」と推測する。「自分かな?」と思った子が前に出る。前にきた子がプレゼントを受け取り、次に「いつも本を読んでいる。算数が得意」などと言うと、また、「自分かな?」と思う子が前にでて、プレゼントをもらう。先生は、写真を撮る。こんな感じで、クラス全員にプレゼントのリレーが続いていった。どの子どもどの子もすごくうれしそうだった。

プレゼントリレーが終わったら、お菓子の分かち合いタイム。子どもたちは、このときを心待ちにしていたようで、それぞれが持ち寄ったお菓子をテーブルにならべて、先生が合図を出すと、あっという間にお菓子がなくなった。再び、中庭に全校児童が集合。ダンスタイムが始まった。音楽に合わせて、全校生徒みんなが踊る。手拍子したり、手を振ったり、思い思いの振り付けで楽し



全校の前で校長先生と挨拶をしている様子

く踊った。私は、子どもたちの中に入って、たくさんの子とハイタッチしながら踊って本当に楽しかった。

最後に校長先生との質疑応答をした。この学校はインクルーシブ教育を実践するため、障害のある子どもと同じ場で学んでいること、いじめを未然に防ぐために、まずは環境を整えることが大事ということで、校内に十数カ所監視カメラを設置していることなどが話題にあがった。

パラグアイの国民性である「分かち合い」の文化の象徴である「友情の日」のイベントに参加することができて本当によかった。私達来客にもフレンドリーに接してくれるし、子どもたち同士のコミュニケーションも暖かさを感じた。校長先生から「共存するためにはルールが必要である」という言葉が印象的であった。暖かさの中、お互いをリスペクトしルールは守る。多民族国家だからこそ、法を守ることでコミュニティを守ることができるということを子どものうちから「ルールは大事」と伝えているのだと思った。

この後、エンカルナシオンホテルに宿泊した。エンカルナシオンは国境の町。パラグアイ川の向こうはアルゼンチンである。夕食のイタリアンレストランにはアルゼンチンからのお客さんもいた。(高木)

7日目：7月31日 木

● エンカルナシオン日本人会表敬 ～日系アイデンティティセンター～ 移住者一世との交流ランチ

エンカルナシオン日本人会の日系アイデンティティセンターを訪問。多くの写真と映像で日系人の移住の歩みを記録している。茶室や図書室も実際に使われている。その後は記録映像に出てきた一世の方々と直接対面してランチをご一緒した。船の便名や日付に始まり、パラグアイで生活の基盤を築くまでの苦労と達成感が背中合わせのドラマをそれぞれ聞くことができた。都市部に住む日系一世の人と話すことができたことは、他の地域の一世や、同じ土地の二世三世と話す上での大切な基準になった。(中塚)



一世の開いたレストラン Hiroshima の仕出し弁当を頂きながら、一世の方と食事会。食事をしながらもペンと質問が止まる時間が無い

● エンカルナシオン日本人学校・夕食会

日本で教員を勤めあげ、エンカルナシオンの日本人学校に着任した山田校長の案内で、日本人学校の授業を見学。日系生徒を中心にしつつ、日系でない生徒も含めて異年齢集団が日本語を使いながら遊ぶ姿が新鮮だった。児童生徒のスピーチも聞き、ものすごく流暢なスピーチや物語の暗唱に驚いた。日本語と日本語教育を通じて日本の良さを伝えて残すこと、日系の方々が築いてきた信頼を受け継ぐことへの強い熱意を感じた。



夕食会終了後の記念撮影
二世三世の方を中心に盛り上がった。写真二列目の後ろには肉を焼くグリルが室内に備わっている

夕食は日本人会が総出でご招待いただいた。牛一頭つぶしたアサードは圧巻で、パラグアイ流のおもてなしを堪能した。(中塚)

8日目：8月1日 金

● ラパス日本人会表敬挨拶・移住資料館、農協見学

ラパス日本人会では、併設されている移住資料館を後藤会長と宮里さんに案内をしていただきながら見学しました。ここでは、移住当初の貴重なお話を伺うことができました。移住したての子どもたちは、半日は学校に通い、残りの半日は農作業を手伝っていたこと。移住して20年近くは、機械がなくて手作業で農業を行っていたことなどでした。しかし「移民＝苦勞」ではなかったというお話が印象に残りました。パラグアイとの言葉や文化の違いをポジティブに受け止め、信頼関係を築いていった移民の方たちの努力と、パラグアイに根付く多文化共生の感覚が織りなした結果なのだろうと思いました。(野木)



移住資料館の展示物

● ラパス日本語学校授業見学・児童との交流、ホームステイ先へ

登校したら全員で集まり、ラジオ体操をしたり、日記をみんなの前で読んだり… 日本の小学校と似たような雰囲気を感じました。先生方との情報交換の時間では、日系三世ともなると、日本語を残したい思いのある親ほど、子どもたちに日本語を学ぶニーズ自体はそこまでなく、日本語の求心力の弱まりを感じているとお話がありました。河野校長の「日本語は完璧に操れなくても良いから学んで欲しい。でも外に出て稼ぐためにはスペイン語が必要だし、ぜひ子どもたちには外を見てほしい。それでもラパスを守ることはできる」という言葉が印象に残りました。(野木)



日本語学校の授業の様子

9日目：8月2日 土

● 餅つき交流会・ホエナウの道の駅見学

朝、ホームステイ先の安藤さんに畑を案内していただき、赤土を採集した。「向こうの木までがうちの畑だよ」と言われ、その広さに圧倒された。

その後、各ホームステイ先からラパス日本人会に集合。集合時間は予定通り、「パラグアイタイム」だった。日本人会には子どもからお年寄りまで集まり、餅つきが行われた。あんこ、きな粉、納豆などで味付けされた餅はどれも美味しかった。この光景だけを見ていると、ここがパラグアイであることを忘れてしまうほど、日本そのものだった。昼には、日本の道の駅を参考に作られたホエナウの道の駅を訪れ、市長をはじめとする関係者から説明を受けた。(廣瀬)



現地の方と餅つきをする研修生& 現地の方と話をする研修生。日本にしか見えない!!

● ドイツ移民資料館・ドリニダー遺跡

ホエナウは、多国籍な移民によって築かれた町である。ドイツ移民の資料館とフェスティバル会場を見学し、祭りを通じた人種間の交流の様子が想像できた。

その後、イエズス会の宣教師と先住民グアラニー族が共に暮らした歴史を持つトリニダー遺跡を訪れた。夜は、予定外だったが、急遽決まったエンカルナシオン日本人会の amigo との再会で、2度目の夕食会を楽しく過ごした。(廣瀬)



グアラニー族のガイドさんに説明を聞いた

10日目：8月3日 ㊦

● チパ屋訪問

アスンシオンへの道中、チパ屋に立ち寄りしました。「チパ」とはキャッサバの粉とチーズ、豚脂、卵、アニスなどの材料を混ぜ合わせて、オーブンで焼いたものです。味や食感は「ボンデケージョ」に近いです。焼きたてのチパはあたたかく、ふっくらしていてとても美味しいです。時間が経つと固くなるので電子レンジで温めて食べるとまた美味しく食べられます。チパは真ん中の空いたドーナツ型、ころころと小さなボール型、細長いものまでいろんな形のものがあります。4月のセマナサンタと呼ばれるキリストの復活祭には各家庭で手作りのチパを食べます(女子栄養大学HPより)。(堀谷)



パラグアイ名物、温かくもちもちのチパ

● 振り返り会

これまでのインプットをもとに、アウトプット(①何を伝えたいか②なぜ伝えたいか③どのように伝える

か)のアイデアを出していった。今回はフォトランゲージの手法で、これまでの研修中に印象的だった写真をもとに教材の種を探していった。(堀谷)



毎日実施する振り返りミーティング

11日目：8月4日 ㊦

● 国家障害者人権庁 SENADIS ～すべての人の権利が守られる社会づくりについて学ぶ～

SENADISがこの地域全般の福祉事業をまとめ、障害のあるなしに関わらず生活しやすい国家にするために IMPCTO02 というプロジェクトを進めている。2011年から県と市にそれぞれ障害者委員会を設置するなどインクルーシブが進むように尽力している。まずは実際に障害をもっている当事者の方たちと対話をしながら、彼らのサポートで終わらずに、障害を持っていても能力を発揮できるような社会づくりを目指しているという話を聞くことができた。パラグアイにはすでに特別支援学校がないということには驚いたが、それについての是非についても慎重に対話を重ねていくのだろうと思うと、パラグアイも日本もインクルーシブ教育に対する課題は似ているのかもしれない。万人が過ごしやすい街づくりをすることはみんなの為であり、すべての人の人権が守られる国家であってほしいとの話が心に強く残った。(上野)



SENADISの施設見学で説明を聞いている様子

● ニヤンドゥティ工房 ～伝統工芸ニヤンドゥティの作り手の思いから考える文化の継承～

パラグアイの伝統工芸品ニヤンドゥティはグアラニー語で「蜘蛛の糸」を意味する。糸が細くなればなるほど値段が高額になるが、作品としても透明感を増して美しくなりとても魅力的だ。しかし、そのような作品を作るには高い技術が必要になってくる。後継者が年々減っていることが課題であるそうだが、講習会を開くなど多くの人にニヤンドゥティに触れる機会を設けて次の世代へ技術が受け継がれるように努力をしているそうだ。工房では職人のヴィクトリーナさんから直接話をお聞きすることができた。



ニヤンドゥティを実際に作っているところを見せてもらう様子

ニャンドゥティは、ただのレース刺繍ではなく、針と糸に思いを込めてひと針ずつ縫っていくその作業が心の安らぎを生むセラピーのようなものだという。ニャンドゥティと共に人生を歩んでこられた作り手の思いを感じ心動かされるものがあった。(上野)

12日目：8月5日 火

● レプブリカ・グアテマラ学校

これまでいくつかの学校を訪問してきたが、公立の学校は初めてだった。学校名の「グアテマラ」というのは、チャコ戦争後の復興支援のなかでグアテマラからも支援をもらい、感謝の気持ちから名付けられたとおっしゃっていて、パラグアイの歴史を垣間見ることができた。

中学生との交流のなかで、「学校ではテレレ禁止」という衝撃的な発言があった。なぜ禁止なのかと言うと雑談が始まってしまうからとのことだった。伝統であり、人と分かち合うものであるテレレ文化の影響を感じた瞬間だった。また、学校では様々なイベントを大切にしていた。8月だと、14日(国旗の日)、15日(首都の創立記念日)、16日(こどもの日)、22日(フォルクローレの日)で、イベントを通して文化を守っていたのが印象的だった。(江川)



歓迎のために伝統ダンスを披露していただいた

● JICA現地スタッフとの座談会

研修も終盤となり、すべての訪問を終えた後、この座談会を迎えた。色々見てきたこと、聞いてきたことから自分のなかで形作ってきたものを答え合わせさせてもらえるような機会、座談会を通してさらにテーマへの知見を深めることができた。「多文化共生」の実現において、スタッフの方々から出てきたキーワードが「混ざる」「ちがいを理解」「リスペクト」「興味をもって」「民主主義・人権」だった。よい人もいれば、悪い人もいる。だが、根底として相手のありのままの姿を認め、尊重する気持ちを持ち続けていきたいと思った。(江川)



座談会の様子

13日目：8月6日 水

● 報告会

朝から JICA 事務所で報告会を行った。それぞれがこの2週間で得た学びを共有し合う時間であったが、どの報告も共感できるものであった。パラグアイを通して学べたことはとても多く、答えは出さずとも、考えるきっかけを多分に与えてくれた研修であった。(小林)



JICA パラグアイオフィスにて記念撮影



民芸品店にて教材入手

● パラグアイ出立

午後には民芸店に行った。この2週間触れてきた、パラグアイの様々な文化を目にする機会であった。

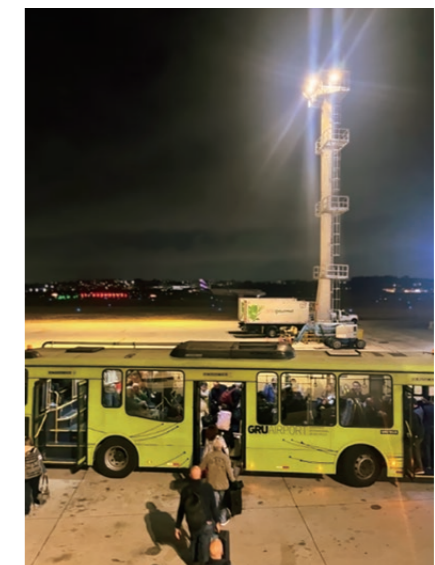
いよいよパラグアイを旅立つときが来た。到着した日に感じた不安感はなくなっていた。あれは、パラグアイを知らないからこそその不安だったように感じる。やはり、知ることは大切である。パラグアイを旅立つことに寂しさを感じていた。だが、地球の反対側の地でも日本文化を感じられたように、文化はその人の思いでつなげていけるはずである。2週間で学んだパラグアイの文化を自分の中に詰め込み、日本に向けて出立したいと思う。(小林)

14日目：8月7日 木

● サンパウロ～ドーハ移動

帰国の寂しさを表すかのように、ブラジルの空気はパラグアイよりも冷えていた。サンパウロの空港では、個人のプチテーマの答え合わせを行なった。私自身のテーマは「何にアイデンティティを感じているのか。守っているものは何か。」というものであり、その暫定的な答えは「Nikkei」と「つながり」となった。

世代が変わり、国籍が日本でなくても、育った文化の中には「日本」があり、「自分は Nikkei だ」というアイデンティティを持って生きている——そんな声を多く聞いた。また、パラグアイに根付く「テレレ」の文化は、単にお茶を飲むだけではなく、飲み物をシェアすることで人とのつながりを強めていくものであり、



ドーハ空港に到着

日系人との交流でもその大切さを感じた。Nikkei の方々は、日本の外にいるからこそ、そのルーツを持つ者同士の絆を確かめ合い、背景が少しずつ多様化していく中でもつながりを守り続けている。その姿勢が、パラグアイにおける「違いを受け止め合う」温かさにつながっているかもしれない、と感じた。(小松)

15日目：8月8日 金

● ドーハ発

最後の朝の会。出発前に成田空港で行った“出発に際しての気持ち”に対し、ここでは“帰国に際しての気持ち”を発表。各自の発表を聞き、15日間という短い期間だったが、とても刺激的で学びの深い研修だったことが伺えた。また、「Gracias」、「感謝」という言葉も多く聞かれた。この研修がいかに様々な方々に支えられ、充実したものだったかがわかる。

ここまで大きな病気や怪我もなく、12名そろってここまで来られたことに感謝。あとは約10時間のフライトを乗り切るのみ。

たくさんのお土産とたくさんの思い出を胸に、日本に向かって出発!!(荘所)



ドーハ空港にて最後の朝の会

● 成田空港着

ついに成田空港に到着。全員が荷物を受け取り、到着会を行った。長旅の疲れで口数は少なかったものの、15日間やり切った達成感で皆いい顔をしていた。メンバーに恵まれたこと、たくさんの素敵な出会いと深い学びがあったこと、12名全員で無事帰国できたこと、どれも当たり前ではない Gracias の詰まった15日間だった。久しぶりに家族に会える、ラーメンが食べられるなどそれぞれの思いを胸に帰路についた。皆さん、本当にお疲れさまでした!!(荘所)



ただいま～ 成田空港



2025年度教師海外研修参加者【撮影：2025年教師海外研修事務局】

実践授業報告

※この報告書に掲載されている写真は、教師海外研修参加者の責任の基に提供されたものを使用しています。
※参加者の先生、児童生徒さんの原文をいかして掲載しております。表記などにばらつきがありますが、ご了承ください。



実践者	氏名	荘所 美紀	学校名	横浜市立本郷特別支援学校
	担当教科等	小学部3年担任 図工、音楽	対象学年(人数)	小学部3年1組(7名)
	実践年月日もしくは期間(時数)	2025年10月～11月(計6時間)		

【実践概要】

【1】実践した教科

クラス課題(国際理解教育)

【2】単元(活動)名

異文化を知って楽しむ

【3】本時の授業タイトル

パラグアイの伝統舞踊「ボトルダンス」

【4】単元設定の理由・意義と評価基準について

【単元設定の理由・意義】

自分たちが日本という国で生活していること、海を越えた先に様々な国があること、世界の国々には日本と違った言葉や食べ物、遊びなどの文化があることを知ってほしい。また、実際に楽しく体験することで相手のことをより理解することができる。

【評価基準について】

- ・障害特性に応じて、自分なりの表現でその国の挨拶ができる。
- ・日本の遊び「けん玉やあやとり」、パラグアイの伝統文化「ボトルダンス」を体験し、楽しむことができる。

【5】単元計画(全6時間)

時	小単元名	学習のねらい	学習活動	資料など
1	日本の文化 ①「昔遊び」	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちが住んでいる国「日本」の場所や遊びについて知る。 ・日本の昔遊び「けん玉、こま、あやとり」を体験する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・世界地図を見て、自分たちのいる場所や国の名前を知る。 ・挨拶「こんにちは」を練習する。 ・けん玉、こま、あやとりを実際に一人ずつやってみる。 	世界地図 けん玉 こま あやとり

2	日本の文化 ②「食べ物、民話」	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の食べ物について考える。 ・日本の民話を読んで、野菜について知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・給食を通して、和食について知る。 ・絵本「にんじんとだいこんとごぼう」を読んで、日本で食べられている野菜について考える。 	世界地図 大型絵本「にんじんとだいこんとごぼう」
3	日本の文化 ③「1年の行事」	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の行事(1～12月)について知る。 ・ハロウィン、クリスマス、お正月について理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スライドを見て、日本の伝統行事について知る。 ・絵本の読み聞かせを通して、11月、12月、1月の行事の由来や特徴を理解する。 	絵本 ・「ハロウィンってなに？」 ・「まどからおくりもの」 ・「おもち」
4	ラテンアメリカの文化 「動物、遊び」	<ul style="list-style-type: none"> ・ラテンアメリカに生息する動物について知る。 ・ラテンアメリカの遊びや飲み物を体験する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・カピバラ、ワニ、ジャガーなどの写真や絵本を見て、ラテンアメリカに生息する動物を知る。 ・コーヒー豆を使ったブラジルの遊びを体験して楽しむ。 	コーヒー豆 仕掛け絵「動物たち」
5	パラグアイの文化 ①「食べ物、楽器」	<ul style="list-style-type: none"> ・パラグアイの食べ物や楽器について知る。 ・ギロや太鼓などを実際に体験してみる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ラテンアメリカで飲まれているマテ茶のにおいをかぐ。テレレ(マテ茶の回し飲み)の真似をする。 ・ギロと太鼓を使って、ラテン音楽を体験する。 	楽器(ギロ、ギター、太鼓) マテ茶
6 本時	パラグアイの文化 ②「ボトルダンス」	<ul style="list-style-type: none"> ・伝統舞踊「ボトルダンス」を体験して楽しむ。 ・パラグアイにも日本語を学んでいる児童や日本文化が存在することを学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・缶をワインボトルに見立てて、ボトルダンスを体験してみる。 ・七夕の写真や日本語学校の映像を通して、パラグアイにも日本語や日本文化を学んでいる子どもたちがいることを理解する。 	ワインボトル 写真「短冊」

【6】本時の展開(6時間目)

- 本時のねらい**
- ・パラグアイの伝統舞踊「ボトルダンス」を体験して楽しむ。
 - ・パラグアイにも日本語や日本文化が存在し、それを学んでいる子どもたちがいることを知る。

過程・時間	教員の働きかけ・発問 および学習活動・指導形態	指導上の留意点 (支援)	資料 (教材)
導入 (5分)	◎挨拶	・発語がない児童はジェスチャーで挨拶をする。	絵カード： 「こんにちは」 「Hola!」

	<p>◎クイズ「この短冊を書いたのは？」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・七夕の短冊の写真を見る。 ・パラグアイの日本語学校の映像を見る。 ・短冊を書いた子どもたちの背景を考える。 ・パラグアイの挨拶「iHola!」、料理、遊びなどを振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・パラグアイにも日本語や日本文化を学んでいる子どもがいることに気付かせる。 	<p>写真、映像 世界地図</p>
<p>展開 (25分)</p>	<p>◎パラグアイ伝統舞踊「ボトルダンス」を体験する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボトルダンスの映像を見る。 ・児童は順にワインボトルを持ってその重さ確かめてみる。 ・教員の手本を見る。 ・グループにわかれて、練習する。 ・児童は一人一人前に出てボトルダンスをやってみる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワインボトルは割れやすいので、教員が手を添えたり、そばで見守ったりする。 ・児童がボトルダンスを体験する際、周りにスペースを設けて、安全面に配慮する。 	<p>ワインボトル 空き缶 児童顔写真 映像「ボトルダンス」</p>
<p>まとめ (5分)</p>	<p>◎振り返り 「ボトルダンスの感想発表」</p> <p>◎終わりの挨拶</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・感想はドロップタップで選択をさせる。 ・終わりを意識させる。 	<p>iPad</p>

【9】学校内で国際理解教育を広める取組

- ・職員全員に向けて、10月10日(金)に海外研修報告会を行った。内容はパラグアイの地理、文化、日系人の歩みと課題、多文化共生のヒント等について。また、報告会終了後、アンケートを取って分析し、職員全体にフィードバックを行った。
- ・小学部3年生、10月～11月全6回、日本とパラグアイ、ラテンアメリカの文化について、言葉や遊び、食べ物、学校の様子などについて写真やビデオを見たり、実際に体験したりして、日本とパラグアイ(ラテンアメリカ)の共通点や相違点を知る授業を行った。

【10】学校外で国際理解教育を広める取組

- ・横浜市の多文化共生・国際教室研究会の部員の方を対象に、パラグアイ研修の報告を通して多文化共生のヒントや日系人の歩みと課題を発表した。

【11】今後、続けていく活動について

- ・今後も校内や校外で多文化共生について発信して行く。他学部での実践を行ったり、職員たちと多文化共生へのヒントを雑談ベースで語り合ったり、近隣で学習支援などのボランティアをしたり、できることをコツコツと続けて行く。

【7】実践を終えて(成果、課題など)

- ・パラグアイで日本語を学ぶ子どもたちがいること、その祖父母たちは昔日本からパラグアイに来たこと、パラグアイでも日本文化を継承していることを児童がどのくらい理解できたか。
- ・児童たちは、異文化「ボトルダンス」を楽しんで体験していた。また、日本文化「けん玉」や「あやとり」、ブラジルのコーヒー豆を使った遊び「おはじき」を体験することで、世界には様々な文化があることを知ることができた。

【8】学びの軌跡(児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)

- ・挨拶「こんにちは」と「iHola!」を言葉やジェスチャーで表現できるようになった。特に、「こんにちは」は、校内で他学年の児童生徒や職員と会ったときに使っているので、自然に「こんにちは」が言えるようになって来た児童もいる。
- ・けん玉やボトルダンスの体験は、どの児童もとても集中して熱心に取り組んでいた。障害特性が一人一人違うので、自分なりのやり方で楽しんでいる様子が印象的だった。
- ・この単元を始めてから、ある児童は世界地図と国旗に興味を持ち始め、休み時間に世界地図を広げていると質問してくるようになった。

[参考資料]

1: 本時で使用したスライド





KAYOKO TAKAKI

実践者	氏名	高木 佳代子	学校名	神奈川県藤沢市立駒寄小学校
	担当教科等	外国語・外国語活動	対象学年(人数)	4年1・2・3組(80名)
	実践年月日もしくは期間(時数)	2025年11月～12月(5時間)		

【実践概要】

【1】実践した教科

道徳・外国語活動

【2】単元(活動)名

主 題 名 世界の人々に親しむ
 「短冊に込めた願い」～パラグアイの子どもたちとの交流を通して～
 内容項目C 国際理解、国際交流 外国語活動(1)イ(イ)(ウ)

【3】本時の授業タイトル

オンライン交流会 Be friends! パラグアイの友だちのことを知ろう!

【4】単元設定の理由・意義と評価基準について

①交流に至った経緯

研修先の1つとして、「エンカルナシオン日本語学校」に訪問した。この学校は、主に移住した日本人の子孫(現在は三世、四世が多い)が日本語を学ぶために通っている。子どもたちは、午前中は現地の学校で学び、午後週3日と土曜日に日本語学校で学んでいる。幼稚部、小学校低学年、高学年、中学部に分かれて学んでおり、全員で30人くらいである。

訪問した際には、日本の伝統あそびやレクリエーション、フリートークなどを通して、児童との交流を行った。子どもたちは毎年日本語スピーチコンクールに参加していて、そのスピーチを聞かせてもらったが、非常によく練習していることがうかがえた。

交流の際、本校の児童たちが書いた手紙(パラグアイの子どもたちへの質問、イラスト、メッセージなど)を渡した。後日、この学校で日本語教師として活動している五嶋先生から連絡があった。それは、高学年クラスの子どもたち(9人)と、駒寄小学校の子どもたちとの交流授業を行いたいとの提案だった。日本語学校の子どもたちは、日系社会の大人たちと日本語で話す機会はあるが、日本人の子どもと話す機会は少ないので、日本の子どもたちとの交流をしたいとのことであった。

4年生の外国語活動では、「Be friends! ～友だちになろう～」をテーマに、英語で会話をしたり、ゲームをしたりすることを通して、コミュニケーションを楽しむことを大切にしてきた。子ども

たちは、クラスメイトとの会話やゲームで英語を主体的に使い、楽しんで学習している。交流は、子どもたちにとって、実際に外国にいる子どもたちと友だちになれる、貴重な機会だと考え、実施することとした。

②共通ワーク「短冊にこめた願い」について

よりよいコミュニケーションを図るためには、相手の背景にある文化に対する理解を深め、相手に配慮することが大切である。相手のことを深く理解するためには、相手のことやその背景に関心を持つこと、想像することが大切であると考え、交流に先駆けて、パラグアイ研修参加者で開発した共通ワーク「短冊にこめた願い」を行う。「ぼくは、にほんにいきたいです。お願いします。」と書いた短冊の写真を見て、「どんな人が書いたか、なぜ書いたか」を想像し、考えをお互いにシェアするワークである。

③交流に向けて

相手への関心を持ったところで、エンカルナシオン日本語学校の子どもたちからのビデオレターを見せ、この短冊を書いた子どもは、「パラグアイエンカルナシオン日本語学校」にいて、日本語を習っていて、日本のことにとっても興味があり、みんなと友だちになりたいと思っていることを伝える。そして、友だちになるために、どんなことができるかを話し合う。ビデオレターやオンライン授業という方法があることを伝え、どんなことを質問するか、日本からはどんなことを伝えたいかを考える。

また、パラグアイから、送られたビデオレターには、彼らの自己紹介とともに「おじいちゃん日本から来ました」など、ルーツに関する情報も含まれている。そこをきっかけに、日本のパラグアイ移民の歴史についても知らせることで、さらにパラグアイの子どもたちへの関心を持てるようにする。

④評価について

- ・パラグアイの子どもたちや文化に親しみ、関心をもとうとする。
- ・パラグアイと日本の文化との共通点や相違点に目を向け、それぞれの良さを感じる。

【5】単元計画(全5時間)

時	小単元名	学習のねらい	学習活動	資料など
1	「短冊に込めた願い」	よりよいコミュニケーションをするために、「想像力」をはたらかせる。	<ul style="list-style-type: none"> ・「ぼくは、にほんにいきたいです。お願いします」と書かれた短冊の写真を見て、どんな人が、どんな思いで書いたのかを、付箋に書く。 ・考えたことを発表し、シェアする。 ・さまざまな考えが出たこと、一人一人が想像力を働かせたことを評価する。 ・パラグアイから送られてきたビデオレターを見て、感想を伝え合う。 →パラグアイの子どもたちと会ってみたい! 遠くにいってもできることを考えよう! 	短冊の写真 班の数 ふせん

2	Be friends 友だちになる ために何が できる?	パラグアイの子 どもたちと友だち になるためにでき ることを考える。	<ul style="list-style-type: none"> ビデオレターの「おじいちゃんが日本から来た」というメッセージや日本からパラグアイに移住した人々がいたことを知る。 エンカルナシオンに日本語学校のできた理由や学校の様子についてのスライドを見る。 自分たちがやってみよう交流プランを考える。 →ビデオレターを送る。 オンライン通話で話す。 ビデオレターで伝える内容を班ごとに決める。 オンライン交流の時に聞いてみたいことを考える。 	パワーポイント 内容 ビデオレター パラグアイエン カルナシオン日 本語学校の様子 パラグアイ移民 の歴史の写真 地球儀
3	交流の準備を しよう!	交流会の流れを 知る	<ul style="list-style-type: none"> パラグアイとの交流のプログラムを聞き、内容や流れを知る。 パラグアイの子どもたちからの質問に答えられるよう、送られてきた質問の答えをワークシートに書く 当日のリハーサルをする →グループごとに、質疑応答をする。 パソコン画面の前に行き、あいさつをして名前を言った後、班のみんなで質問をする。その後、パラグアイからの質問に答える。 	ワークシート <ul style="list-style-type: none"> 交流会のプログラム 日本からの質問 パラグアイからの質問
4 本時	オンライン交 流会 Be friends! パラグアイの 友だちのこ とを知ろう!	オンライン交 流会を通して、パ ラグアイの友だ ちのことを知 る。	<ul style="list-style-type: none"> パラグアイの子どもたちへの質問をしたり、パラグアイの子どもたちからの質問に答えたりする。 	ワークシート ZOOM接続用 パソコン マイク
5	交流をふりか えろう	パラグアイと日 本の文化のそれ ぞれの良さを感じ る。	オンライン交流のふりかえりをする。 <ul style="list-style-type: none"> パラグアイの子どもたちに手紙を書く ビデオレターの撮影をする。 自己紹介とおすすめの観光地・日本食・アニメ・ゲーム・遊び・学校行事などを紹介。 	

【6】本時の展開(4時間目)

本時のねらい パラグアイの子どもたちの話を聞いたり、質問に答えたりすることを通して、パラグアイの子どもたちのことや文化を知ろうとする。

過程・時間	教員の働きかけ・発問 および学習活動・指導形態	指導上の留意点 (支援)	資料 (教材)
導入 授業前 2分	今日の交流の目的を伝える。 相手のことを知ろうとしよう! →友だちになる第一歩 「話を聞く、自分のことを話す。」	<ul style="list-style-type: none"> 各教室スクリーン設置 担任のパソコン、椅子2台を教室前方にセット ZOOMにログイン 	

8:50	Zoom(全体ルーム)開始		ワークシート
	1. はじめの言葉 (駒寄小 高木) 2. パラグアイの先生の話 (エンカルナシオン日本語学校 先生)	ブレイクアウトルームに 五嶋先生が移動させる。	
8:55	☆ブレイクアウトルーム クラスごとのルームに移動		
	3. 質問タイム		
8:56	1班から、順に前方のパソコン前に来て質疑応答をする。 ①日本からパラグアイの子どもに質問する ②パラグアイからの質問に答える		
	ブレイクアウトルームから、全体ルームに移動		
9:20	5. 日本からパラグアイへメッセージ 6. パラグアイから日本へメッセージ 各クラス代表児童 1組 2組 3組	ブレイクアウトルームに 五嶋先生が移動させる。	
	7. パラグアイの先生の話 (エンカルナシオン日本語学校 山田先生)		
9:25	終了		
終了後	交流のふりかえりを書く (わかったこと・気がついたこと・思ったこと)		ふりかえり用紙

【7】実践を終えて(成果、課題など)

①フォトランゲージ教材「短冊にこめた思い」について

このワークの目的は、相手のことを知ろうと想像力をはたらかせることである。

「この短冊を書いた人が日本に行きたいのはなぜですか?」と問う発問に対しては、「日本食を食べたい。アニメが好きだから。」といった観光目的の理由もあれば、親の都合で海外にいるから「友だちに会いたい。」のような、日本人だけど今は海外にいると言った理由。また、今いる場所が戦争等で危険からの避難目的の理由、日本は豊かで治安が良いといった、経済的な理由など、様々な意見が出た。相手のことを知ろうと、想像力を膨らますのに適したフォトランゲージ教材だった。

②交流について

パラグアイの子どもたちと日本の子どもたちが実際に交流することができたのは、大きな成果だと思う。遠い場所にいる同年代の子どもたちと話をすることができ、「楽しかった。」「実際に会ってみたいな。」「遠くにいる人でも友だちになれる」のような実感を持つことができた。この経験を通して、「知らない国」が、「友だちの国」になった。

今回交流が実現できたのは、エンカルナシオン日本語学校の五嶋先生（海外協力隊員）、校長の山田先生のおかげである。時差が12時間あるため、オンライン交流は、日本の授業時間に合わせるとパラグアイでは夜の9時以降になってしまう。そのため、当初企画したものの、パラグアイの子どもの参加希望が1人しかいなかった。いったんは、ビデオレターのための交流に変更することも考えたが、山田先生が「パラグアイから一人でも参加するのであれば、日本の子どもにもパラグアイの子どもにとっても貴重な経験になるからオンライン授業をやった方が良い。」との意見に勇気を得て実施することにした。日本の子どもは3クラス79名、パラグアイは数名で人数に大きな差がある。交流の時間は40分。この条件でみんなが満足できるような方法を模索した。

パラグアイの子どもは参加しやすいように家庭からの参加とした。ブレイクアウトルームを活用して、クラスごとに会話できるようにし、日本の子どもが話す時間を確保し、より親近感を持って話せるよう工夫した。

当日はパラグアイから6人の子どもが参加した。パラグアイの子どもたちは、日本の子どもたちの質問に熱心に答えてくれた。日本の子どもたちも、うれしそうに質問に答えていた。日本の子どもたちはパラグアイの子どもたちの回答を記録しながら、興味を持って聞いていた。

パラグアイからの質問は日本の文化に関するものが多かった。日本の子どもたちは改めて、日本の文化や自分たちの住む神奈川県や藤沢市の良さを見つけて伝えていた。外国の人と交流することを通して、自分の国、地域の文化を再確認することができ、普段当たり前だと持っているものの存在に価値を見いだすことにつながった。相手を知ろうとすることが自分を知ることにつながった。

【8】学びの軌跡（児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど）

オンライン交流の感想より

- 夜の九時くらいに、あんなにパラグアイの話をしてくれて、パラグアイのキャラクター、教科、良いところなど、いろいろなことを話してくれて楽しかった。
- パラグアイには、ぼくたちの知らない食べ物、音楽があった。
- パラグアイに行ったら、エンパカーナを食べてみたいです。好きなあそびがドッチボールと聞いて、好きな遊びが一緒だなと思った。
- みんな、日本語がめっちゃうまかった。チパとエンパナーダを、じっさいに見てうまそうだった。行ってみたいと思った。
- パラグアイのN君と話して、とっても楽しかったし、質問してパラグアイのおすすめの場所もしてくれ楽しかった。サンリオやロブボックスが人気なものびっくりした。パラグアイの子もとお話して、なかよくなりた。とっても楽しかった。
- パラグアイのことがよく知れてうれしかったし、食べ物もおいしそうだった。ロブボックスが人気で自分もやっていたから、びっくりした。
- 日本語がとても上手ですごかったです。パラグアイに行ってみたくて思いました。とても楽しかったです。また、ビデオ通話をしたいです。
- 電話でもこんなに楽しいから、本当にあったらとても楽しいと思う。だから、パラグアイに行きたい。パラグアイ料理を食べたい。
- パラグアイのみんなと一緒に話してきてうれしかった。

【9】学校内で国際理解教育を広める取組

- 3～6年19クラスの児童に JICA 教師海外研修での経験をもとに、パラグアイのことや JICA の活動についてクイズを交えて話をした。
- 職員全体に向けて、海外研修報告会をおこなった。

【10】学校外で国際理解教育を広める取組

- 藤沢市内の外国語教育の研究会にて、パラグアイ研修の報告を行った。パラグアイの自然、文化、学校教育などを報告した。また、JICA の活動についても紹介した。

【11】今後、続けていく活動について

- 昨年からの外国語の授業の中で、韓国の小学生との交流を行ってきた。パラグアイとの交流を通して、海外の同年代の子どもたちと交流することは意義があることをさらに実感できたので、これからもチャレンジしていきたい。
- 今回、海外協力隊の五嶋先生との連携によりパラグアイとの交流が実現した。今後も JICA と連携し、子どもたちがより主体的に、国際理解教育や国際交流を体験できるような授業実践をしていきたい。

授業風景



[参考にしたサイトなど]

- エンカルナシオン日系アイデンティティーセンター ホームページのドキュメンタリー画像 <https://identidadnikkei.org.py/ja/>
- 海外移住資料館 展示 ポスター

「短冊に込めた願い」

～パラグアイの子もたちとの交流を通して～

今日のテーマ

より良いコミュニケーションをするためには、
相手を思いやる **想像力** が必要

世界中の人と友だちになるために
想像力をはたらかせてみよう！

ぼくは
にほんに
いきたい
です
おねがい
します。
海

海くんのストーリーを想像してみよう。

①「～だから、
日本に行きたい。」

海くんのストーリーを想像してみよう。

②「～だから、
日本語が書ける。」

短冊のあった場所の写真をみてみましょう。

③この日本語学校がある国は、

パラグアイ

なぜ、パラグアイに日本語学校があるのでしょうか？

「おじいちゃんは、日本の秋田県からパラグアイにきました。」

「おばあちゃんは、日本の北海道からパラグアイにきました。いつか、おばあちゃんの生まれた北海道に行ってみたいです。」

何をすすめているポスターですか？

南アメリカへの移住 (いじゅう)

1952年、パラグアイ政府によって創設された「チャベス移住地」に日本人が入植。

アカカシマ1号家は小屋を建てて開拓の第一歩を踏み出す。

開拓当初、木を切り倒し、山焼きをする若者たち (撮影 1957年)

道路、橋等のインフラ整備により、移住地の交通・通信は格段に改善された。

イグアス移住地は、パラグアイにおける「大豆の不耕起栽培」発祥の地。

パラグアイに移住した人々は、日本語と日本の文化を子どもたちに伝えるために、学校をつくりました。

NIHONGO GAKKO
La escuela Japonesa

七夕

夏祭り

ASOCIACION JAPONESA DE ENCARNACION

こどもの日

祝 敬老の日

the students display all their grace and creativity

運動会

2019年度 校内スピーチコンテスト

They actively participate in the

実践者	氏名	野木 佳保	学校名	横浜市立左近山小学校
	担当教科等	全教科	対象学年(人数)	個別支援学級4年(16名)
	実践年月日もしくは期間(時数)	2025年12月~1月(3時間)		

【実践概要】

【1】実践した教科

道徳

【2】単元(活動)名

「相手を 知ろうとすると おもしろい！」

【3】本時の授業タイトル

気になる木

【4】単元設定の理由・意義と評価基準について

本単元でねらう内容項目は、自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、相手のことを理解し、自分と異なる意見も大切にしようとする心情を育てることである。指導にあたっては、児童自身の思いにも寄り添いつつ、異なる考えや価値観との出会いを楽しく受け止められる手立てをとり、今回ねらいとする価値である「相手を知ろうとするとおもしろい！」が実感できるようにしていきたい。

【5】単元計画(全3時間)

時	小単元名	学習のねらい	学習活動	資料など
1 本時	気になる木	相手を知ることによって自分の気持ちや捉えが変化することに気づき、相手を知ろうとするよさについて考えようとする。	相手を知ろうとすると、 <u>どんな良いことがあるか考えよう。</u> 相手の事情、背景等を知らない自分と、相手のことを知った自分で、相手に対する思いがどのように変化するかを考える。	写真 ワークシート
2	私の願いごと	相手のことを想像し、深く理解しようとすることの大切さや面白さに気付く。	相手を知ろうとする面白さを味わおう 七夕に書かれた願い事を読み、その人がどんな人なのか、背景を想像し物語を作る。	写真 ワークシート

3	私と友だち	自分と友達には違いがあり、それを良さとしてとらえようとする。	相手と自分の「ちがい」に気付こう 自分の好き・嫌い、得意・苦手をワークシートに表し、友達と見合う活動を通して、相手との「ちがい」がいけないものではなく、それぞれがよさであることに気付く。	ワークシート
---	-------	--------------------------------	--	--------

【6】本時の展開(1時間)

本時のねらい 相手を知ることによって自分の気持ちや捉えが変化することに気づき、相手を知ろうとすることのよさについて考えようとする。

過程・時間	教員の働きかけ・発問および学習活動・指導形態(予想される児童の反応)	指導上の留意点(支援)	資料(教材)
導入 (15分)	<ul style="list-style-type: none"> ○歩道の真ん中にある木の写真を提示し、もし自分がこの道を歩いていたらどう思うかを想像し、意見を出し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・邪魔だな。 ・なんであるのだろう ○この言葉を聞いた木はどう思うかを想像し、意見を出し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ごめんね。 ・先にいたのは自分なのに。 ○木が歩道の真ん中に植えてあるのに、切られず残されている理由を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・木の位置に注目させ、通りにくくて困る状況であることに気付かせる。 ・実態によってはロールプレイを行い、木の気持ちが想像しやすくなるようにする。 	木の写真
めあて 相手のことを知ろうとすると、どんな良いことがあるか考えよう。			
展開 (20分)	<ul style="list-style-type: none"> ○もし、道をふさぐものが人だった場合、相手のことを知る前と知った後でどう感じるかを考え、意見を出し合う。 <ol style="list-style-type: none"> ①(相手のことを知る前)女の子 (相手を知ったあと)迷子で困っている女の子 ②(相手のことを知る前)大人の男性 (相手を知った後)足に障害のある大人の男性 ③(相手のことを知る前)外国人 (相手を知った後)日本のルールを知らない外国人 	<ul style="list-style-type: none"> ・「相手のことを知る前」と「相手のことを知ったあと」双方の感情が見比べやすいワークシートを用いて、気持ちの変化に注目させる。 	ワークシート
まとめ (10分)	<ul style="list-style-type: none"> ○相手のことを知ろうとすると、どのようなよさがあったか、活動をふり返り、感想を出し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・友達の輪が広がった。 ・優しい気持ちでかかわれる。 ○ふりかえりを行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・あまり相手のことについて考えたことがなかった。 ・どうしても苦手意識のある人はいるので、うまくかわる方法を知りたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実態によっては、選択肢を設け、自分の気持ちに近いものを選べるようにする。 	ふりかえりシート

【7】実践を終えて(成果、課題など)

「木の気持ちを考える」という題材の設定により、児童らが身構えず、素直な思いを口にすることができた。そのため、その後の活動でも、自分の思いを出し合っていたように感じる。相手のことを知る前と知った後では、相手に対して抱く感情も変わってくることにほとんどの児童が気付いた様子だった。

【8】学びの軌跡(児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)

もし「ここに」いるのが子どもだったら?

相手のことを知るまえ

この子危ないし邪魔だな注意したいけど注意したら泣いちゃうかなまだ知らない子だから無視してどうしよう。

相手のことを知ったあと

迷子だったんださっきは、話しかけなかったけど迷子とわかったら助けるしかない。話しかけて親を探そう。

もし「ここに」いるのが大人だったら?

相手のことを知るまえ

話しかけてどうでももらいたけど怖いな無視しようかなでも通れないそれか誰かに言ってもらおうかな。

相手のことを知ったあと

障害者なのかなはなしかけて「てつだいますよ。」と声をかけてたすけながらすすむ。

ふりかえりシート

今日の学習をして 自分の気持ちに 1番近いのは どれですか? (1つえらびましょう)

- ・今までは 人の 好き・きらいや 仲良くする人を なんとなくで えらんでいたかもしれない、と 気づいた。
- ・あまり他人のことに ついて 考えたことがなかった、と 気づいた。
- ・もしかしたら 相手のことを むいしきに きずつけたかもしれない、と 心配になった。
- ・今日の 学習は むずかしかったので、もう1ど このことについて 先生に話してほしい。

ふりかえりシート

これからの自分の気持ちについて 近いものをえらびましょう。(いくつでも)

- ・相手のことを もっと知ろうとする 気持ちをもちたい。
- ・どうしても にがていきのある人は いるので、上手にかかわる ほうほうを 知りたい。
- ・どんなに がんばっても 世界中のみんなと 仲よくするのは むずかしいと 思う。
- ・今のところは 人とのかんけいは うまくいっているので、このまま がんばりたい。

【9】学校内で国際理解教育を広める取組

校内全職員に向けて、11月14日(金)人権研修として実施した。ワークショップで職員にもマインリティや言語の壁を体感してもらい、多文化共生の必要性を伝えた。45分間の研修の中で、「共生」があたりまえの左近山小学校の実現にむけて、先生方に考えていただいた。

【10】学校外で国際理解教育を広める取組

1月14日(水)横浜市小学校教育研究会多文化共生・国際教室研究会の多文化共生部会で、海外教員研修での学びを伝える予定。多文化共生のヒントは、「文化」や「相手を知ろうとする気持ち」であることを、国際教室担当の先生方にお伝えする。

【11】今後、続けていく活動について

残時数がない中で行わなければならない授業を「増やす」ではなく、道徳の授業の代わりとして実施することができる授業として、本単元の実施を促したい。

また、今年度職員向けの研修をした際、外国にルーツのある家庭が来日したてのときに利用する日本語支援拠点施設について話が出た。外国にルーツのある児童が年々増えてきているので、職員の興味関心も増しているように感じている。日本語支援拠点施設と連携し、研修等も実施したいと考えている。

[参考資料]
1: 本時で使用したワークシート
2: 本時で使用したふりかえりシート

もし「ここに」いるのが子どもだったら?

相手のことを知るまえ

この子危ないし邪魔だな注意したいけど注意したら泣いちゃうかなまだ知らない子だから無視してどうしよう。

相手のことを知ったあと

迷子だったんださっきは、話しかけなかったけど迷子とわかったら助けるしかない。話しかけて親を探そう。

もし「ここに」いるのが大人だったら?

相手のことを知るまえ

話しかけてどうでももらいたけど怖いな無視しようかなでも通れないそれか誰かに言ってもらおうかな。

相手のことを知ったあと

障害者なのかなはなしかけて「てつだいますよ。」と声をかけてたすけながらすすむ。

ふりかえりシート

今日の学習をして 自分の気持ちに 1番近いのは どれですか? (1つえらびましょう)

- ・今までは 人の 好き・きらいや 仲良くする人を なんとなくで えらんでいたかもしれない、と 気づいた。
- ・あまり他人のことに ついて 考えたことがなかった、と 気づいた。
- ・もしかしたら 相手のことを むいしきに きずつけたかもしれない、と 心配になった。
- ・今日の 学習は むずかしかったので、もう1ど このことについて 先生に話してほしい。

ふりかえりシート

これからの自分の気持ちについて 近いものをえらびましょう。(いくつでも)

- ・相手のことを もっと知ろうとする 気持ちをもちたい。
- ・どうしても にがていきのある人は いるので、上手にかかわる ほうほうを 知りたい。
- ・どんなに がんばっても 世界中のみんなと 仲よくするのは むずかしいと 思う。
- ・今のところは 人とのかんけいは うまくいっているので、このまま がんばりたい。

				<h1>MARI UENO</h1>	
実践者	氏名	上野 真理	学校名	相模原市立旭中学校	
	担当教科等	英語	対象学年(人数)	2年2組(37名)	
	実践年月日もしくは期間(時数)	2025年12月(2時間)			

【実践概要】

【1】実践した教科

英語

【2】単元(活動)名

What is important in a homestay?

【3】本時の授業タイトル

私の願い事

【4】単元設定の理由・意義と評価基準について

環境の異なる場所で生活する人々の思いを知ることで、自分の当たり前は、他者の当たり前ではないということに気が付く。その上で、自分と相手の生活環境を比較、判断して終わらせず、「どうしてそうなのだろう」「本当にそうなのだろうか」という「知ろうとする」ことの大切さを感じる機会としたい。受け入れたり、受け止めたり、時に、ポジティブな気持ちで受け流すことのできる心の余裕の育成の場になるように自分事して多様性を考える体験とする。

【評価基準について】

人々の文化的・社会的背景が多様であることを理解し、その違いを学ぶことの意義や楽しさを知ることができる。

相手の背景を知るための基本的な情報収集やコミュニケーションの方法を身に着ける。

物事を一つの視点ではなく多様な視点から考えようとする。

相手を決めつけず、優劣をつけない姿勢で他者の立場や状況を想像しながら考える力を養う。

背景を理解した上で、互いに尊重し共に生きるために必要な考え方を表現できる。


【5】単元計画(全3時間)

時	小単元名	学習のねらい	学習活動	資料など
1	気になる木	パラグアイの木という教材を通して、多様なものの考え方ができることを知る	1. 生まれ変わるなら何になりたい?	

			2. 木の気持ちを考える ①木のセリフを考える ②共に生きるとは 3. 振り返り(共に生きるとは?①)
2 本時	私の願い事	異なる環境に暮らす人々の願いを知り、共に生きていく姿勢を育む機会とする	1. 行事を比べる 2. 日系の子供達の願いを知る ①海さんを知る ②谷川さんを知る 3. 振り返り(共に生きるとは?②)
3	タペストリーで繋ぐ物語	タペストリーを見比べて遠くの国に住む仲間への理解を深める	1. タペストリーを自由に鑑賞 2. 類似点、相違点を見つける 3. 振り返り(共に生きるとは③)

【6】本時の展開(1時間)

本時のねらい 異なる環境に暮らす人々の願いを知り、共に生きていく姿勢を育む機会とする

過程・時間	教員の働きかけ・発問および学習活動・指導形態	指導上の留意点(支援)	資料(教材)
導入 (15分)	Warm-up(歌) ①国ごとの行事について ・クリスマス ・七夕 ②願いが書かれた七夕の短冊を複数枚、見せる(5分)	○行事を通して文化の違いを感じる	
展開	③海さんに焦点を当てる(10分) (発問)海さんってどんな子なのかな? →どこ出身?どこ在住?何歳? なんで日本に行きたいって思ったのだろう? →その後、クラスでシェア 	○海さんを想像させることで相手を知ろうとする体験になるように、生徒に自由に考えさせる	
(25分)	④エンカルナシオン日本語学校について知る(10分) ・時間割 ・日本語の授業の映像 ⑤日系人について知る ・「ほんとうにそうなのかな」谷川さんスピーチ鑑賞 ・日系人とは(写真や図と一緒に考える)	○谷川さんを通して日系人の思いを感じられるような雰囲気づくり	
まとめ (10分)	⑥授業の感想を書く(5分)		

【7】実践を終えて(成果、課題など)

私自身、開発教育を行うのは初めてであったため苦悩しながら授業構成を考えた。実際のパラグアイでの研修では、日系パラグアイ人という存在を通して、「共生とは何か」を考える機会に多く恵まれ大変刺激的なものであった。自分が体験してきたものを生徒たちにも同じようにリアルに感じてもらえるようにどのような発問が効果的か、生徒たちの反応を見ながら、何度も調整しながら7クラスで3時間構成の授業を実践した。言語や文化、環境が異なる人と「地球人」として共に生きるためにはどうしたらいいのか、というテーマの下で計21回授業を実践することができた。回数を重ねるごとに、最終的には、共生を考える授業とはいってシンプルなもののように思えてきた。15回ほど授業を実践するころには、私自身も、生徒たちの「見たまま」「感じたまま」そのものが「共生」を考える答えになるのだろうと感じるようになった。最終的には、多くの生徒が、共に生きるために何が必要かを自分事として捉えることができ、実践していきたいと考えているようだった。ただし、そもそも異文化に関心がまだなく知識自体が少ない生徒については、事前に様々な外国の様子を知る機会を学校掲示物などで作っておくと理解が深まったのだろうと感じた。今回の授業で終わりにせず、日本以外の国での暮らしに関心を持ってもらい知る機会を日常の中で生徒たちには作っていききたい。そうすることで、今回のこの授業がさらに生きてくると思った。

【8】学びの軌跡(児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)

言語と文化が違う中でも助け合いは大切だと思います。
 違う国でも、地球に住む地球人であり、人間である
 という共通点があるのだから、助け合いの精神があれば
 助け合えると思うからです。

お互いに協力できることが
 大切だと思います。

協力・尊重・大事。
 日本とパラグアイは遠く離れた国だから、
 日本とパラグアイは一緒に住んでる人だから、
 だって地球は一つしかないから。
 お互いの協力・尊重が大事だから。

お互いに協力できることが
 大切だと思います。

お互いの長短を認め、生きていくの大切だと
 思った。文化が違うけれど、考え方や生き方
 が似ているところも、
 差別なくお互いに協力できることを
 大切だと思った。

相手の気持ちを思いやることを
 大切だと思った。

自分の文化を大切に思っている
 けれど、お互いに協力できることが
 大切だと思った。

歌を歌っている女の子を見た時、日本の
 中学校でも歌を歌っているのを見たことが
 なかった。それで私は言葉では通じ合えない
 けれど、お互いに協力できることを
 大切だと思った。

互いに尊重して「対等」な関係を築いて
 いくことが大切だと思った。
 色々な人々と一緒に生活していくことが
 大切だと思った。

日本人は日本と異国の文化を大切に思っている
 けれど、お互いに協力できることが
 大切だと思った。

【9】学校内で国際理解教育を広める取組

本研修の成果を校内全体に一気に周知することは現時点では限定的であったが、日常的な対話や個別の情報共有を通して、関心を示した教員たちとの間で継続的な交流が生まれた。その結果、国語科ではパラグアイの伝統文化であるテレシを「あいさつ」という教材と共に扱う授業実践が見られたほか、社会科においては、生徒がパラグアイについて主体的に調べる学習活動が展開されるなど、教科横断的な広がりが確認できた。また、生徒が作成したタペストリーを校内に掲示することで、来校した保護者にも活動の成果を共有する機会を設けることができ、学校内外に向けた国際理解教育の可視化になった。本校では、びあサポートを中心とした支援教育に力を入れており、「誰もが生きやすい社会」「互いに認め合い、共に生きる社会」の実現を目指した支援体制を構築している。本研修で扱った多文化共生の視点は、こうした支援教育の理念と重なり合うものであり、文化的背景や価値観の違いを理解し、安易な決めつけとせずに関わろうとする態度の育成という点において、共通する教育的意義を有している。今回の取り組みは、国際理解教育を新たに付加するものではなく、本校がこれまで取り組んできた支援教育の実践を、多文化共生という視点から再整理・再認識する機会となった。今後は、びあサポートの考え方と国際理解教育をより意識的に結びつけることで、すべての生徒が安心して学び合える共生社会の実現に向けた教育活動を、学校全体としてさらに推進していきたい。



【10】学校外で国際理解教育を広める取組

パラグアイから帰国後の8月下旬に近隣の中学校に赴き、中学2年生、約240人を対象に2時間の講演会を行った。講演内容は「知ることの面白さ」をアントレプレナーシップとレジリエンスを軸にして構成した。講演会は、①異文化を知るⅠ(写真や動画で学ぶ)②言語体験(スペイン語)(グアラニー語)、③異文化を知るⅡ(クイズ&マテ茶の現物に触れる・嗅ぐ)④「共に生きる」とは?を考える、という4項目で構成した。この講演会をするにあたって、7月中に事前アンケートを取り、生徒の実情を把握はしていた。対象は、生徒だったのだが、参観していた教員の方たちも熱心に聞いてくださり、その後、この講演会を受けて自らの行動に変化があった方もいたと後ほど耳にした。その後、講演会の中でお話した「グラスias、アミーゴ」の精神を先生方が大切に生徒たちと学校生活を送ってくださった。そのため、この講演会での学びは2学期の間も色褪せず定着したようだ。他校の先生方が私を招き入れてくれ、さらに真剣に授業を参観してくださったので、私一人ではこれほどまでに、広げられなかったであろう国際理解教育の輪をさらに多くの生徒に広めることができた。やはり、他の先生方の協力ほど頼れるものはないと感じた。このような機会を許してくださった私の所属校の先生方と受け入れてくださった相手校の先生方には感謝の気持ちでいっぱいである。

【11】 今後、続けていく活動について

今後は、英語の授業の中に異文化コミュニケーションについて考える時間を意図的に設け、生徒が多様な文化や価値観に触れる機会を継続的に創出していきたいと考えている。今回、タペストリー制作を通して間接的にパラグアイの人々と繋がる経験ができたことは、生徒にとって大きな喜びとなり、異文化への関心や親しみを高める契機となった。こうした生徒の反応を踏まえ、今後の発展的な取り組みとして、ビデオレターなどを活用し、パラグアイの生徒と相互にメッセージを送り合う交流の可能性についても検討していきたい。今回の実践では直接的な交流には至らなかったものの、間接的な関りであっても、生徒が「世界の誰か」と繋がっている実感を持てたことは、英語学習への意欲向上に繋がっていた。今後は、こうした交流活動を英語の授業と関連付けながら、実現可能な形で取り入れていくことを目指したい。

[参考資料]
1: 本時で使用したスライド
2: 本時で使用したワークシート



Where does Christmas come from?
It's from ().



谷川佳祐さん

日系人

どうして、海さんや谷川さんは、パラグアイに住んでいるのでしょうか?

海さん 谷川さん

移民
1936年から日本人がパラグアイに移住。



Whose birthday is Christmas?
It's (Jesus Christ).



日本人 日系パラグアイ人

日系パラグアイ人

海さんや谷川さん

星間は、パラグアイの公立中学に通学。スペイン語学校

Q1. スペイン語学校では、何語を使いますか? スペイン語

Q2. 家族とは? 日本語

Q2. 友達とは? スペイン語



日系パラグアイ人の方の朝ごはんはどちらでしょう?

A B

私の願い事

2年 組 番 名前 _____

Q.1 海さんは、どんな子だと思いますか?

振り返り

ぼくは にほんに
いきたいです
おねがいします。
海

苗字は? 海さん 何語を話す?
どこで生まれた? ? 何歳?
好きなことは? ? どこに住んでる?
なんで日本に行きたいと思ったのかな?

18,000 km



Paraguay

Kai-san lives in Encarnación

? 海さんの住む街





実践者	氏名	江川 由香里	学校名	平塚市立 神田学校
	担当教科等	2学年担任・社会科	対象学年(人数)	2年4組(33名)
	実践年月日もしくは期間(時数)	2025年12月(1時間)		

【実践概要】

【1】実践した教科

道徳科

【2】単元(活動)名

公正、公平、社会正義

【3】本時の授業タイトル

他者を知る

【4】単元設定の理由・意義と評価基準について

クラスという社会集団内であっても、そこには外国にルーツを持つ生徒やこれまでに育まれてきたさまざまな文化的背景を持つ生徒たちが生活している。個々の文化的背景に基づく価値観の違いから起こる対立を乗り越え、他者とよりよく関わっていくには「他者(の背景)を知ること」が大切であると考え、偏見を避け、公平な関係構築を目指す力を育てていきたい。

【5】単元計画(全1時間)

時	小単元名	学習のねらい	学習活動	資料など
1 本時	道徳： 「他者を知る」	「社会の中で他者とよりよく関わっていくこと」について考える。また、多文化共生の意識を育むきっかけをつくる。	<ul style="list-style-type: none"> 多文化共生ワーク「気になる木」を通して、他者の背景を知る大切さを学ぶ。 他者を知ろうとした経験を踏まえ(経験がなくてもよい)、そのような経験は、自分にとって、相手にとってどんな変化が生まれるか皆で考え、意見を共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業スライド ワークシート

【6】本時の展開(1時間目)

本時のねらい パラグアイで撮ってきた写真を使い作成した多文化共生ワークと尊重の本質を考えさせる教材を通して、「社会の中で他者とよりよく関わっていくこと」について考えさせ、多文化共生の意識を育てていくきっかけとする。

過程・時間	教員の働きかけ・発問 および学習活動・指導形態	指導上の留意点 (支援)	資料 (教材)
導入 (5分)	◇アイスブレイク ①「あなたが一番行ってみたい国は？」 →積極的に発言する。 ②「先生が一番行ってみたい国は〇〇です」 (今回の授業実践の際は、ずっとパラグアイに行ってみたかったということを発表し、パラグアイがどのような国だったのか、研修の写真を数枚紹介した。)	<ul style="list-style-type: none"> どこの国でもよいことを伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> スライド
展開1 (15分)	◇多文化共生ワーク「気になる木」 ①「あなたが道を歩いていると、こんな木に出会いました。あなたはどう思いますか？」 →3~4人班になり、グループで意見共有をする。 ②「(①の声を聞いたうえで)この木の気持ちになってみましょう。木はどんな心のつぶやきをするでしょうか？」 →グループで意見共有をする。 ③「木の存在が人間だったらどうでしょうか。身のまわりでつぶやきたそうな人はいるでしょうか？」 →社会のなかのマイノリティの存在を知る。	<ul style="list-style-type: none"> 配られた付箋に書くように伝える。 意見が出てこない場合は、投げかけるに留める。 	<ul style="list-style-type: none"> スライド 授業ワークシート
学びのテーマ： 他者とよりよく関わっていくことについて考えよう。			
展開2 (20分)	◇「他者を知ること」について考える ①「他者のことを知ろうとした経験はありますか？それはどんなとき？」 →積極的に発言する。 ②「他者を知ろうとすると、自分にとって、相手にとってどんな変化が生まれるだろうか？」 →グループで意見共有をする。	<ul style="list-style-type: none"> 左記の発問の前に、「自分のことを他者に知ってもらった経験はありますか？」というサブ発問をする。 左記の発問の後に、「他者を知ろうとしなくなると、どうなるだろうか？」というサブ発問をし、展開1の①②で出てきた生徒の意見と繋げる。 	<ul style="list-style-type: none"> スライド 授業ワークシート
終末 (10分)	◇「他者を知ろうとすることについて、今日の授業で学んだことを書きましょう」 →積極的に発言する。さまざまな意見があることを知る。 ◇最後に、なぜパラグアイの木が伐採されないのか、その理由を伝える。	<ul style="list-style-type: none"> どのような意見があってもよいことを伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> スライド 授業ワークシート

【7】実践を終えて(成果、課題など)

多文化共生ワーク「気になる木」を実践してみて、木になりきった生徒たちの意見がとても素直で興味深かった。生徒たちも、木の気持ちになることが初めてだったので、新鮮な気持ちであったと思う。木の存在を「人間」に置き換えて考える際には、具体的な事例を挙げるなどもう少し工夫が必要であると感じたが、今回の授業が他者を知ることの面白さや大切さを考えるきっかけになってくれていたら嬉しい。

他者を知ろうとすることは、実は無意識にもたくさんしているのではないかと思う。そのことを生徒自身が実感できたことが一つこの授業の成果である。また、他者を知ることには決して面白いことだけではなく、傷つくことや悲しいこと、関わりたくないなど感じてしまうこともある、という生徒たちの日常からくる不安な気持ちを垣間見ることもできた。

そして、何よりも見た目目で判断してはならず、内面を知っていこうとする意識を再確認できたように感じる。知ろうとしなくなると相手と対立し続ける。世界はこの知ろうとすることができなくて国と国との争いが絶えなくなっている。だからこそ、相手を知り、尊重する。このように考える生徒がいたことが、私にとって今後も「多文化共生」を考え続けていきたい原動力となった。

【8】学びの軌跡(児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)

多文化共生ワーク「気になる木」においては、道の真ん中に生えている木に出会ったら、「危なくて邪魔」「驚く」「立派な木」「何も思わない」などの、素直な意見を聞くことができた。これに対する、木の心のつぶやきとしては「何でここに植えられているのかな」などの疑問を抱いた意見、「移動したいな」「森に帰りたい」などの悲しみを表現した意見、また、「邪魔なのは人間だろ」のような少し攻撃的な表現の意見が出てきて、その多様さが興味深かった。また、木の存在を「人間」に置き換えて考えてみる余地があると感じられた。

後半の「他者を知ること」について考える活動においては、自身の経験をもとに想像し、さまざまに考えることができていた。自分のことを他者に知ってもらった経験は少ないものの、自分が他者を知ろうとした経験は少なくないようである。では、他者を知ろうとすると自分・相手にとってどんな変化が生まれると考えるか。生徒たちからは、「共通意識を持ち、より仲が深まるかもしれない」といった意見に加え、「見た目では判断していたこととは異なって、仲良くなれたり、自分に合わなかったりする」という意見などが出てきた。また、自分に合わない場合は「離れる」という判断をする、といったような生徒たちなりの現実的な考え方も垣間見ることもできた。

【9】学校内で国際理解教育を広める取組

・5月に実施した2学年の横浜校外学習では、JICA海外移住資料館での見学を通して、「日本人の海外移住」について学習をした。その後、10月の文化発表会では、短時間ではあったものの、その学びを演劇というかたちで発表した。

・パラグアイ研修の記録を模造紙にまとめ、所属学年のフロアに掲示をしている。JICAの活動や研修の目的はもちろん、私自身が一番生徒たちに伝えたいことをまとめた。今後は他学年のフロアにも順番に掲示をし、また第2弾の掲示物も作成したいと考えている。これによって、多くの生

徒や教員の目に留まり、少しでも国際理解教育に興味を持ってもらえたら嬉しい。



・今後は、研修報告の機会を設けてみたり、通信なるものを定期的に発行し、生徒・保護者・教員など、より多くの人に目に留めてもらえるような取り組みをしていきたい。

【10】学校外で国際理解教育を広める取組

まだ行えていないが、学校評議員に研修や授業実践などを報告する機会をつくれたらと考えている。また、他校での取り組みなどを知り、勉強させてもらうなかでどのような取り組みができそうか考えていきたい。

【11】今後、続けていく活動について

担当教科の授業(社会科・道徳科・総合など)で定期的に「国際理解」「多文化共生」に関わる授業を実践していきたい。その際には他の教員、また可能であれば保護者などの参観を呼びかけたい。また、パラグアイ研修で得られた多くの素材を使って、引き続き教材開発もしていきたいと考えている。

他には、外部で実施されている講座やセミナーなどに赴き、さまざまな意見に触れながら「多文化共生」について考え続けていきたい。

[参考資料]
 1: 本時で使用したスライド
 2: 本時で使用したワークシート

今日の道徳は・・・

R7.12.01～02

アイスブレイク

あなたが、
今一番行きたい外国は
どこですか？

江川先生は、

パラグアイ

2025年度 JICA横浜
教師海外研修募集要項

多文化共生・移民

パラグアイ共和国

「多文化共生」

国籍や民族が異なる人々がお互いの文化の違いを認め合って、対等な関係で共に生きていくこと。

あなたが道を歩いていると、こんな木に出会いました。どう思いますか？

？

この木の気持ちになって、「心のつぶやき」を考えてみよう。

学びのテーマ：
他者によりよく関わっていくことについて考えよう。

自分のことを
まわりの人に知ってもらった
経験はありますか？

学びのテーマ：
他者によりよく関わっていくことについて考えよう。

まわりの人のことを
知ろうとした
経験はありますか？

学びのテーマ：
他者によりよく関わっていくことについて考えよう。

まわりの人を知ろうとすると、自分にとって、相手にとってどんな変化が生まれるだろうか？

学びのテーマ：
他者によりよく関わっていくことについて考えよう。

まわりの人を知ろうとしなくなるとどうなるだろう？

学びのテーマ：
他者によりよく関わっていくことについて考えよう。

まわりの人を知ろうとすることについて、今日の授業で学んだことを書きましょう。

2年生道徳【第16回】公平、公正、社会正義 令和7年12月1日(月)・2日(火)

16. 他者を知る

	2年 組 番	
氏名		

学びのテーマ：他者によりよく関わっていくことについて考えよう。

(1) 他者のことを知ろうとした経験はありますか？また、それはどんなとき？

(2) 他者を知ろうとすると、自分にとって、相手にとってどんな変化が生まれるだろうか？

自分の考え	まわりの意見

(3) 他者を知ろうとすることについて、今日の授業で学んだことを書きましょう。

.....

.....

.....

JICA 多文化共生教材「気になる木」

①あなたが道を歩いていると、こんな木に出会いました。どう思いますか？ (自分の意見)	②この木の気持ちになってみましょう。木はどんな心のつぶやきをするでしょうか？ (自分の意見)



KAZUKI KOBAYASHI

実践者	氏名	小林 和貴	学校名	相模原市立 串川中学校
	担当教科等	数学、理科	対象学年(人数)	1年A組(36名)
	実践年月日もしくは期間(時数)	2025年10月~11月(2時間)		

【実践概要】

【1】実践した教科

学活

【2】単元(活動)名

集団生活

【3】本時の授業タイトル

相手の背景を考えよう

【4】単元設定の理由・意義と評価基準について

「もっと周りの人を大切にしてもらいたい！」その一歩目は相手を知ることだと考えます。
「相手を知ることを楽しみ」と思ってもらえるようにこの単元を設定しました。

【5】単元計画(全2時間)

時	小単元名	学習のねらい	学習活動	資料など
1	「気になる木」	身近な物や人の気持ちを考えることで、他者を尊重する姿勢を育む。	<ul style="list-style-type: none"> 「気になる木」の教材を使い、木がどんなことをつぶやきそうか考える。 身近な物や人がどのようなことを考えているか想像する。 	「気になる木」
2 本時	「私の願いごと」	他者の背景を想像するとともに、自己理解も深める。	<ul style="list-style-type: none"> 七夕の写真を通して、「かい」さんがどのような人か想像する。 自分の今まで過ごした日々を振り返る。 	「私の願いごと」

【6】本時の展開(2時間目)

本時のねらい

過程・時間	教員の働きかけ・発問および学習活動・指導形態	指導上の留意点(支援)	資料(教材)
導入 (8分)	<p>○アイスブレイク</p> <ul style="list-style-type: none"> 物語リレー(桃太郎) 10人程度を指名する。先生が「昔々あるところにおじいさんとおばあさんがいました。」というので、そのあとに続いて一文で物語をリレーする。 <p>○七夕の写真を見て、「かい」くんがどんな人物なのかを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 付箋に個人で書き出す。 班で共有する。 全体で共有する。 	想像で良いことを伝え、自由に発想させる(誹謗中傷は除く)	「私の願いごと」
展開 (30分)	<p>○「かい」くんの人生を物語にして紹介する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 個人で文章を作る。 全体で何人か共有する。 <p>○自分の今までの人生を物語で紹介する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 個人で文章を作る。 班で共有する。 	手が止まる生徒に関しては、先ほど付箋に書いたことをヒントに文章を作っていくことを伝える。	
まとめ (12分)	<p>振り返りを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「かい」くんについて考えてどのようなことを感じたか。 自分の物語を書いてどのようなことを感じたか。 周りの人の物語を聞いてどのようなことを考えたか。 	センシティブな内容でもあるので、人生の切り取る部分は個々にゆだねる。	

【7】実践を終えて(成果、課題など)

本実践では、あえて研修国である「パラグアイ」という固有名詞を前面に出さずに授業を構成した。「パラグアイに行かなければできない授業」ではなく、どの教員でも、どの教室でも取り組める普遍的な教材開発を目指したためである。

授業は、たった一つの短冊から「かい」くんという人物を想像することから始まった。子どもたちは想像の幅を広げ、年齢、出身地、そして彼の切実な思いに至るまで、多様な物語を創り上げた。そこには子どもたち一人ひとりの価値観が色濃く反映されており、友だちとの違いを面白がりながら「相手の背景を考える楽しさ」に気付いていく姿は、まさに多文化共生の第一歩であったように思う。

「かい」くんの物語から、自分の物語だったらどうだろう、と自己理解を深める機会となった。自己理解と他者理解は相互に作用するものであり、この往還が、他者との共生を考える土台となるのではないかと考える。

この授業は、他者や自己についてゆっくり考える時間を必要とする授業である。今回は2時間で設定したが、もっと余裕を持って行ってもよいように感じる。

【8】学びの軌跡(児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)

【「海」くんの物語について】

限られた情報から、「何か深い事情がありそうだ」「きっと子どもに違いない」といった、海くんの背景や属性にまで想像を広げた記述が多く見られた。また、級友との交流を通して「人によって海くんの人物像は違うし、物語も違って面白い」「知らない人の物語を想像するのは大変だが、楽しい」といった感想が挙げられた。一つの事象に対しても多様な解釈があることを知り、他者の背景を想像する難しさと面白さを同時に実感している様子が見られた。

【自分の物語について】

自身のこれまでを物語化する活動では、「自分のことをあまり振り返らないから、多くの気づきがあった」や「自分の人生の振り返りみたいで面白かった」など、自己を客観視する新鮮さを味わっていた。さらに、「この先どうなるか分からなくて、楽しみになった」という記述からは、不確実な未来を肯定的に捉えようとする意欲が見られ、自己理解が将来への希望につながったことが確認できた。

【9】学校内で国際理解教育を広める取組

生徒に向けては、校内に掲示物を作成・展示し、日常的に多様な価値観に触れられる環境を整備した。授業内だけでなく、生活空間の中に情報を配置することで、生徒が自らとは異なる環境や文化に対して、自然と興味・関心を抱ききっかけ作りを行った。実際に、自分とは違う文化に興味を示す様子が見られた。

教職員に向けては、職員会議等の場を活用して本実践の報告を行う予定である。特定の教科にとどまらず、教育活動のあらゆる場面で国際理解教育の視点を取り入れてもらえるよう、具体的な実践事例を共有し、学校全体での取り組みへと広げていきたい。

【10】学校外で国際理解教育を広める取組

私は、外国にルーツを持つ小中学生に向けて学習のサポートをするボランティアを行っている。その中のスタッフに学んだことの共有をしていければと思っている。また、児童生徒と関わる際には、ここまでの研修で学んだことを参考に活動を行っていきたいと考える。

【11】今後、続けていく活動について

本研修を通じて、「文化」とは特定の国や地域の枠に留まるものではなく、一人ひとりが大切にしてきた時間や空間の歴史の集積であると確信した。そして、その文化は、一人の力ではなく、相互に尊重し合う時間の中で人々が分かち合うことでこそ、本当の意味を持つように思う。

誰もが自身の文化を大切にされたいと願う感情は、共生社会の実現に向けた根幹になると考える。私たちは、この尊重の行動に踏み出すための最も重要な第一歩は、「相手を知ろうとすると楽しい」という感情であると結論付けた。

この学びを今後も、学校内外のより多くの人々につないでいくことに尽力し、誰もが自分らしく生きられる多文化共生社会の実現に向けて努めていきたい。

【参考資料】

- 1: 本時で使用したスライド
- 2: 本時で使用したワークシート

The slides contain the following content:

- Slide 1: 私の願い事 (My Wish)
- Slide 2: アイスブレイク 物語リレー。桃太郎 (Icebreaker Story Relay. Momotaro)
- Slide 3: 今日は物語を 考えてもらいます (Today we will think about the story together)
- Slide 4: まず、この写真を 見て下さい (First, please look at this photo)
- Slide 5: 海くんって どんな人? (What kind of person is Sea-kun?)
- Slide 6: 学習班で意見を出し合おう (Let's share our opinions in learning groups)
- Slide 7: 海君の物語を作 ってみよう (Let's try to create Sea-kun's story)
- Slide 8: 人には物語があるんですね (It seems like everyone has a story, doesn't it?)
- Slide 9: 君たちにはどんな物語 があるでしょうか? (What kind of story do you have?)
- Slide 10: 考えるヒント (Thinking Hints): スタートはどこからでもいいです。・私が生まれた時、・〇歳のとき、・中学生になってから、・今日朝起きてから
- Slide 11: 振り返り (Reflection)

The worksheet contains the following text:

『私の願いごと』
 () 組 () 番 名前 ()
 1. かいくんはどんな人?
 (Photo of a story relay with a sign that says '海くん。日本に行きたい。')
 (Table with 3 rows and 1 column)
 だから「かい」くんは、「日本に行きたい」と思おうようになりました。

The worksheet contains the following text:

2. の物語を考えよう
 (Table with 3 rows and 1 column)

3. 振り返り
 ① かいくんについて考えたとき、どのようなことを感じましたか。
 (Table with 3 rows and 1 column)

② 自分の物語を書いてどのようなことを感じましたか。
 (Table with 3 rows and 1 column)

③ 周りの人の物語を聞いてどのようなことを考えましたか。
 (Table with 3 rows and 1 column)

				YUICHI HIROSE			
実践者	氏名	廣瀬 祐市	学校名	山梨県富士河口湖町立河口湖北学校			
	担当教科等	道徳	対象学年(人数)	1年A組(25名)			
	実践年月日もしくは期間(時数)	2025年11月~12月(3時間)					

【実践概要】

【1】実践した教科

道徳

【2】単元(活動)名

知って広がる、私と世界の対話
「相手を知ろうとすると、面白い」

【3】本時の授業タイトル

気になる木

【4】単元設定の理由・意義と評価基準について

本単元では、「他者との関わり」や「より広い世界との関わり」という領域を横断的に扱うことで、生徒が多文化共生の精神を深く理解し、内面化することを目的とする。多様な価値観や背景を持つ他者を尊重し、共に生きる態度を育むことは、現代社会を生きる上で必要不可欠な力であるため、生徒自身の経験や考えを通して主体的に学ぶ機会を設ける。

【評価基準について】

「相手を知ろうとすると、面白い」というテーマのもと、多様な価値観を尊重し、違いを認め合いながら共生を志向する積極的な態度が一貫して見られるかを評価する。具体的には、振り返りや発言から、生徒が他者理解に対して興味関心を持ち、尊重の姿勢を示しているかを見取る。

【5】単元計画(全11時間)

時	小単元名	学習のねらい	学習活動	資料など
1	私の願いごと	他者の書いた願い事の背景にある物語や自分の物語の作成を通して、その背景を深く想像し、理解しようとすることの重要性や楽しさに気づく	導入: クラス全員で桃太郎の物語を一文ずつつなげて完成させる(物語リレー) 展開1: 「かいくん」の書いた願い事(「ぼくは、にほんにいきたいです」)から、かいくんがどんな人か物語をつくる 展開2: 七夕の時や現在の願いを思い出し、「自分」の物語(例: 赤ちゃんのときの自分物語、中学生になってからの自分物語など)を書いてみる	

			まとめ: 振り返りの記述(かいくん、自分の物語、周りの人の物語を聞いて感じたこと)
2 本時	気になる木	「木」の視点に立って、自分(私)や観光客、環境などを捉え直し、多様な考え方や感じ方を想像する	導入: 生まれ変わるとしたら、何になりたいか 展開1: 「木と私」の対話 展開2: 「木と観光客」の対話 まとめ: 振り返りの記述
3	ポイ捨てって誰のせい? 観光客の物語をのぞき見!	ポイ捨てという行為を、地域住民や「木」の視点、そして観光客の「物語」という両面から想像し、問題の背景にある構造や心理を深く考察する。	導入: 「町長さん語る会」の本校提案資料にある、「ゴミのポイ捨てを多く見かけるようになりました」という記述を全員で確認する 展開1: 「ゴミが落ちていること」と「それを観光客が捨てたこと」は、同じ文脈で語られているが、事実はどこまでか 展開2: ゴミを持った観光客の「物語」を想像する まとめ: 振り返りの記述と、自分たちのゴミ拾い活動の意義について改めて考える

【6】本時の展開(2時間)

本時のねらい 「木」の視点に立って、自分や観光客、環境などを捉え直し、多様な考え方や感じ方を想像する

過程・時間	教員の働きかけ・発問 および学習活動・指導形態	指導上の留意点(支援)	資料(教材)
導入 (5分)	アイスブレイク 「人間以外に生まれ変わるとしたら何になりたいか、理由も含めて」考えてきたことを授業の最初に聞く		
展開1 (20分)	事実の観察と対話「木と私」 1. 写真を見て、「見えているもの」を5つ付箋に書き出す 2. 木と私(あなた)の「ひとこと」のセリフを考える 3. ペアで共有(交換して読み、「よかったところ」を伝える) 4. クラス全体に共有(セリフを発表し、「よかったところ」を教える)	<ul style="list-style-type: none"> ○「見えている事実」と「そうじゃないかな(推測)」を明確に区別させることで、想像の土台となる客観的視点を養う ○ペアやクラスでの共有時、必ず「よかったところ」を伝えるように指導し、生徒同士がお互いの発想を尊重し合う雰囲気を作る 	2025年度 JICA教師海外派遣研修資料 「気になる木」
展開2 (15分)	想像力の深化と対話「木と観光客」 1. 紅葉時期の観光客増加に対する生徒自身と木の気持ちを、静かに想像する 2. 木が観光客に話す「ひとこと」を考える 3. ペアで共有(交換して読む) 4. チャットGPTにも意見を聞いてみる	<ul style="list-style-type: none"> ○木や観光客の気持ちを考える際には、「静かに想像してみてください」と指示し、深い思考を促す ○考察を深める手段として、チャットGPTの意見も参考にさせる 	

<p>まとめ (10分)</p>	<p>振り返りの実施 自身の感情や考えを記述する。</p> <p>① 木とあなたの対話を考えて感じたこと ② 木と観光客の対話を考えて感じたこと ③ 周りの人の対話を聞いて考えたこと</p>	
----------------------	--	--

【7】実践を終えて(成果、課題など)

- 1時間目では、物語を考える活動を通して、自分以外の人の立場に立って考えることの面白さを感じた生徒が多かった。普段、悪いことをした際に相手の立場に立って反省することはあっても、楽しみながら他者の立場を考える経験は少ない。そのため、活動を通して他者理解への心理的なハードルが下がったように感じられた。
- 2時間目では、人ではなく「木」というモノの気持ちを考える活動を行った。そのことで、生徒がもっている「ヒト中心」の固定概念を揺さぶることができ、同じ対象でも見方や捉え方を変えることで、新たな気づきが生まれることを実感できたと思う。
- 3時間目では、観光客に焦点を当てて授業を展開した。予想以上に外国人観光客に対して否定的なイメージをもつ生徒が多かったが、授業を通して、そのイメージをわずかながら変容させることができたと感じている。

【8】学びの軌跡(児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)

【生徒の感想より】

- 普段は考えないようなことでも、今日のように遊びながら楽しんで考えてみると、着眼点が人によって違い、とても面白かった。
- ものには感情がなく、私たち人間からはその気持ちは分からないが、自分の想像力によってさまざまなことを考えられる人間はすごいと思った。
- 木と対話することは実際にはできないことなので、考えたり想像したりするのは不思議で難しかったが、写真を見て「だいたいこんなことを考えているのかな」と想像できたことがとても面白かった。
- 私は観光客が苦手なので、木も冷たい設定にしてしまったが、木は本当は観光客のことを好きなのか、嫌いなのか、どう思っているのかが気になった。

【9】学校内で国際理解教育を広める取組

11月中旬から12月上旬にかけて、パラグアイ滞在中に印象に残った写真に一言メッセージを添えたポスターを作成し、全校生徒に向けて玄関・トイレ・廊下などに掲示した。掲示当初は生徒の反応はあまり見られなかったが、授業内でポスターについて触れるなどの働きかけを行ったところ、生徒同士が楽しそうにポスターの内容について話し合う姿が見られるようになった。一方で、生徒の関心は「どういうことなのか」「なぜなのか」といった答えを知ろうとする点に強く向き、日本とパラグアイの違いを自ら発見し、それを楽しむ段階にまでは至らなかった。

【10】学校外で国際理解教育を広める取組

富士河口湖町紅葉祭りのイベントとして実施された、提灯を使ったゴミ拾い活動に、多くの生徒がボランティアスタッフとして参加した。生徒たちは、紅葉を目的に来訪した外国人観光客にも積極的に声をかけ、ともにゴミ拾いを行う姿が見られた。この活動を通して、学校周辺を訪れる観光客と協働できる取組の可能性を感じることができた。今後は、地域や観光と結びついた国際理解教育の活動について、さらに模索していきたい

【11】今後、続けていく活動について

月に3回、自由参加で実施している学校周辺のゴミ拾い活動を今後も継続していく。ゴミのないきれいな地域を目指すとともに、観光客にとっても地元住民にとっても住みやすい地域となるよう、生徒とともに工夫を考え、実行していきたい。

【参考資料】

- 1: 本時で使用したスライド
- 2: 本時で使用したワークシート

【参考にしたサイト】

紅葉祭りの動画 URL: <https://www.youtube.com/watch?v=Mkw6wxpnW2k>

The cards contain the following content:

- Card 1:** 人間以外に生まれ変わるとしたら何になりたいですか。理由も含めて考えておいて授業の最初に聞きましょう！
- Card 2:** 気になる木 Un árbol interesante
- Card 3:** 「見えているもの」5つ付箋に書きだしてみよう。注意: 女見えている事実→、女そうじゃないかな・そう思う→X
- Card 4:** 吹き出しのセリフ考えてみよう
- Card 5:** ペアで共有 1. となりの友達と交換して読む 2. 「よかったところ」を伝える
- Card 6:** クラスのみんなに共有 1. セリフを発表 2. 「よかったところ」も教えて
- Card 7:** この地域は、紅葉の時期には観光客が増えますね。みなさんはどう感じていますか。
- Card 8:** このイチョウの木はどんな気持ちかな？ 静かに想像してみてください
- Card 9:** 観光客 木が観光客に話すセリフ 考えてみよう
- Card 10:** ペアで共有 1. となりの友達と交換して読む
- Card 11:** チャットGPTにも意見を聞いてみよう！
- Card 12:** 振り返り

〔令和7年度 河川南北中学校〕

日付	R7年 12月5日(金)	天気		氏名	
項目名	気になる木				
例題	程手を知らうとすると、面白い				

1. この木が、あなたにひとこと言うなら…

2. この木が、観光客にひとこと言うなら…

3. 振り返り

①木とあなたの対話を考えた時、どのようなことをどう感じましたか。

②木と観光客の対話を考えてみて、どのようなことを感じましたか。

③周りの人の対話を聞いてどのようなことを考えましたか。

KEIJIRO NAKATSUKA

実践者	氏名	中塚 圭二郎	学校名	神奈川県立平塚中等教育学校
	担当教科等	道徳	対象学年(人数)	1年5組(32名)
	実践年月日もしくは期間(時数)	1年10月~12月(2時間)		

【実践概要】

【1】実践した教科

道徳

【2】単元(活動)名

C: 主として集団や社会とのかかわりに関すること (18) 国際理解、国際親善
 B: 主として人とのかかわりに関すること (11) 相互理解、寛容

【3】本時の授業タイトル

気になる木

【4】単元設定の理由・意義と評価基準について

【単元設定の理由】

事情や背景を知ること、同じ事柄でも見え方が変わることは日常生活ではよくあることである。人間関係でもこのことはあてはまる。なじみが薄い他者と、身近に感じる人では、見る視点が違うだけで言葉のかけ方が変わってくる。自分の中にある「他者を見る視点」を意識化させて、視点を意識すると物事の見え方が変わることを実感させ、変化を楽しませたいと考えた。

【生徒観】

学年に数名外国ルーツの生徒はいるが、日本の学校生活に非常に馴染んでおり、比率も低い。日常生活の中で外国にルーツがあることが原因で摩擦が起きたことは現在のところ無い。また、それゆえに学校生活の中で国際理解や相互理解のギャップを感じる機会もほとんどない。一方、生徒は国際理解という言葉は知っていて、必要性は認識している。ただ、それが自分の生活の中に地続きになっていないという現状がある。

【指導観】

馴染みのない街路樹への言葉かけと、それを通して考える同じ属性を持った身近な人を比較する。自分が相手をどう想定するかによって、かける言葉が変わるなどの自分の変化を楽しませたい。国際理解の視点や考え方を得ることを1時間で終えることもできる。内容が近い教科書の単元との続き物として、ローテーションの中での2時間として実施できる。

【5】単元計画(全2時間)

時	小単元名	学習のねらい	学習活動	資料など
1 本時	気になる木	意識の違いが、自分の気持ちの違いや、かける言葉の違いにつながることに気付く。	<ul style="list-style-type: none"> ・街路樹の写真から、気づくことを考える(フォトランゲージ) ・木への自分の思い、言葉掛けを考える ・木がここに生えている背景を考える ・同じように特別な背景を持つ人を考える 	フォトランゲージ用写真
2	私はここに	困っている人が声をあげやすくなるために、周りの人ができることを考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書を読み、困っている「倉橋選手」にとって岸選手はどういう存在か考える ・少数派が一步目を踏み出すために、周りの環境に必要なことは何か考える ・「力を持つ多数派側」がすべきことを考える 	東京書籍 新編 新しい道徳1

【6】本時の展開(全1時間)

本時のねらい 相手のことが分かると楽しいこと、実際の行動が変わることに気付く。

過程・時間	教員の働きかけ・発問および学習活動・指導形態	指導上の留意点(支援)	資料(教材)
導入 (5分)	グラウンデッドルールの確認 アイスブレイク		黒板
展開 (8分)	<ul style="list-style-type: none"> ・フォトランゲージ用の街路樹の画像を提示 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">あなたがここを歩いていたら、どう思いますか？</div> <ul style="list-style-type: none"> ・写真を見て気づくことを挙げさせ、自分がかけそうな言葉を書かせて、班で共有する ・班で共有した言葉を発表させ、板書して、視点を切り替えさせる 	特に背景を考えさせないまま、強い言葉の発言も許容する	<ul style="list-style-type: none"> ・街路樹の写真(気になる木) ・プロジェクターで街路樹の画像を大写しにしつつ、各班にも写真を配布する
(10分)	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">木の側は、そういう言葉を投げかけられたら、どういつぶやきをしよう？</div> <ul style="list-style-type: none"> ・視点が変わると、相手側ではどうにもできないの事情があることに気付かせる 	強い言葉が自分に返ってくることを実感させ、立場の変化と事情を考える	<ul style="list-style-type: none"> ・発言の要旨を板書する
(12分)	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">木と同じ状況の人って、実際には誰でどんなことをつづやいてる？</div> <ul style="list-style-type: none"> ・同じ状況の人という抽象化は全員で考えさせて、発言を黒板で共有する ・発言から手がかりを抽出して考える視点を整理する ・いくつか状況のサンプルが出たところで、つづやきに集中させる 	木の状況を抽象化して、環境に強く影響を受けている人考えさせる	<ul style="list-style-type: none"> ・同じ状況の人の回答を板書して、整理する

まとめ (10分)	自分の中の発見や、印象に残った意見、きれいに整理できなかった気持ち、本日の感想を記録させる
--------------	---

【7】実践を終えて(成果、課題など)

「自分の意識の変化が自分のかける言葉の変化につながることは楽しむことができたようで、第一目標は達成できた。シンプルな構成にも関わらず、予想以上に多様な感想が出てきていて驚きがあった。多くの生徒が、自分の意見がいつも他人と同じではないことが活動を通して実感できたようで、木の写真を通して「相手を知ろうとすると、面白い！」と思ってくれたことが、国際理解や多文化共生の第一歩になってくれることを願っている。

別の感想では、「そういう立場の人がもっと居そうなのに、思いつかずにきれいに整理できなかった」や「障害のある人や高齢者など、社会的に分かりやすい「そういうつづやきをしている人」しか目に留まらないんだなと思った」という、次のステップに手が届いている発言をする生徒もいた。刺激のある授業をしなければと身が引き締まる思いだった。

一方で、実際に困っている人の例を挙げさせると、多くの生徒は自分の見聞きした生活圏の問題に終始してしまうため、社会課題にまで抽象化して考えさせることは難しかった。次の時間に「自分の努力次第ではどうにもならないこと」で困っている人はどういう人がいるだろうか、という問いかけで生徒の視点を社会課題に向けることができた。視点に気付く経験が得られれば、生活からも学び取れることが変わらと思うので、この視点で授業をすることを継続していきたい。今回は中学1年での実践になったが、社会経験を積んだ学年で実施するとまた出てくる発言が変わりそうだと感じる。

【8】学びの軌跡(児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)

あなたがここを歩いていたら、どう思いますか？への反応

- ・邪魔だなあ！なんで切らないんだろう 視覚障害者に危ない
- ・なんでわざわざ真ん中？こんな真ん中にあるのは理由があるのかな
- ・登ったら楽しそう！こんなに大きくなるなんて！

木のつづやき

- ・ただ生きてるだけなのに
- ・こっちの方が先にいたのに、森に帰りたい
- ・いつ切られるか分からないという恐怖
- ・オレだって生きていたいんだよ、ここを自分で選んだわけじゃない

その言葉を実際に言っていそうな人

- ・弱い立場の人、何かを我慢している人
- ・自分の気持ちを伝えるすべがない人
- ・障害を持っている人、骨折している人
- ・いじられている人
- ・誰かの期待に応えたくても応えられない人

感想から

- 自分の考えや思っていることが、他の人と違ってびっくりした。
- 木の視点に立つと、「じゃま」だと思っていたのが「木のせいではないもんな」と思えるようになった。
- 木なら事情が聞きやすいけど、人間だと簡単に聞けないからどうしよう
- 自分のかけた強い言葉が返ってきてドキッとした。言葉にする前に一度考えたい。
- 自分の思いつかない解決策を言う人がいて面白かった。
- 多様性の時代とか言われてる世の中なのに、意外と日常生活では他と違う人を避けがちだったり、不思議がったりしてしまうことがある。
- そういう立場の人がもっと居そうなのに、思いつかずにきれいに整理できなかった。
- 仕方なく迷惑をかけてしまっているこの「木」みたいな人がいたら積極的に声をかけて心の支えになりたい。でも、好きにはなれないと思うのがちょっと悔しい。
- 自分が感じていることを相手もいつも共感しているわけではないから、相手の思いを聞くことは大切だと思った。
- 障害のある人や高齢者など、社会的に分かりやすい「そういうつぶやきをしている人」しか目に留まらないんだなと思った

【9】学校内で国際理解教育を広める取組

- 中学校 1 学年生徒を対象に、学年集会で写真や動画を使いながら、パラグアイという国の地理や伝統について紹介した。
- 各クラス 2 回の道徳の授業を通して、日本からの移民と日本への移民の大きな流れを紹介した。
- 事前に受け付けた質問への一問一答を廊下に掲示して、遠い国との共通点や相違点を紹介した。
- 次年度以後に訪れる予定の JICA 横浜海外移住資料館についても話題を提供して、日本人と移民移住の歴史と今にも続く繋がりを紹介した。

【10】学校外で国際理解教育を広める取組

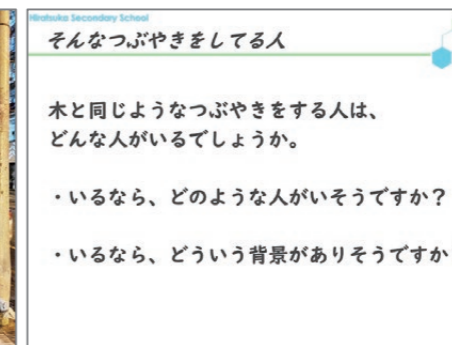
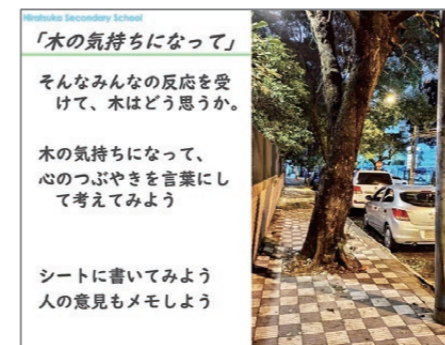
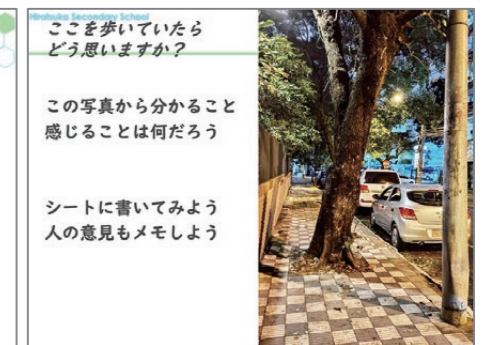
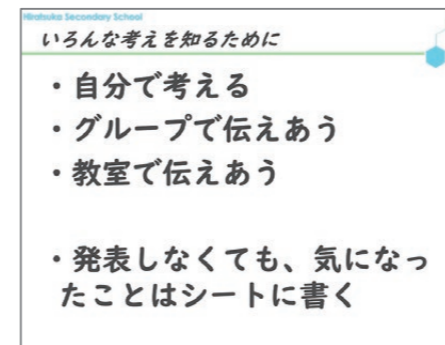
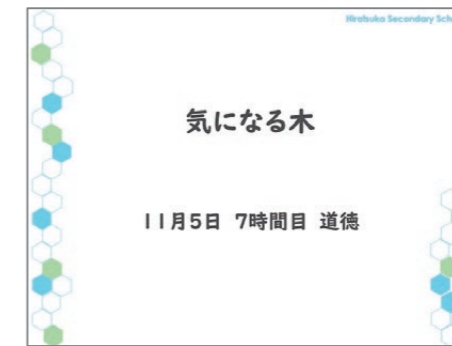
- 平塚市の日本語教室への参与観察を通して、日本語を学ぶ側の視点、日本とつながりを持つとする人々の視点を得て生徒へ還元する。

【11】今後、続けていく活動について

- 文化祭への参加や招待などを通して、地域の人や他の学校との交流の機会を作る。既にある学校間の交流を発展させるとともに、学外に開かれた行事では新しいつながりを作っていく。

[参考資料]

- 1: 本時で使用したスライド
- 2: 本時で使用したワークシート



道徳ワークシート「気になる木」

1年 組 番 氏名 _____

Q1 この木が生えている背景

自分の考え

人から聞いた考え

Q2 この木のつぶやき

自分の考え

人から聞いた考え

Q3 そんなつぶやきをしている人

自分の考え/人から刺激を受けた考え

こんな「木」知ってる(どういう立場の人が、どういう言葉を受けて、どういう思いをしていそう)

本日の感想

自分の中の視見・変化や、印象に残った発言・意見、きれいに整理できなかった気持ち・考え、その他

実践者	氏名	小松 明美	学校名	川崎市立川崎高等学校
	担当教科等	英語	対象学年(人数)	3年F組(32名)
	実践年月日もしくは期間(時数)	2025年10月~11月(4時間)		

【実践概要】

【1】実践した教科

英語

【2】単元(活動)名

Cultural Blending in a Globalized World

【3】本時の授業タイトル

Understanding Others Through a Tree

【4】単元設定の理由・意義と評価基準について

本校はALTとの授業をライティングのお題に関連した活動として行っている。AI、地球温暖化、女性の活躍など多岐にわたるテーマを扱いつつ、今回はその総まとめとして「グローバル化と文化の融合」をテーマに行う。生徒の最終的なアウトプットとしてのWritingをルーブリックに基づいて評価する。

【5】単元計画(全4時間)

時	小単元名	学習のねらい	学習活動	資料など
1	Globalization in Business	グローバル化の具体例として、企業やブランドを通じた文化交流を理解する 異文化理解への興味を引き出す	世界の有名企業・ブランドの写真・ロゴを提示 「このブランドはどこ国のもの？」 「世界の人々にどんな影響を与えていると思う？」 グループで話し合い → 全体共有 まとめ：企業活動が文化を混ぜる一例であることを確認	•世界のブランド・企業ロゴや写真 •商品やサービスの写真 •短いニュース記事や広告例
2	Pros and Cons of a Globalized World	グローバル化のメリット・デメリットを理解する 自分の意見を論理的に整理し、相手に伝える力を育てる	クラスを2チームに分ける(賛成派・反対派) 小グループで意見を整理(メリット・デメリット) ディベート実施(1分×交互に3ラウンド) 全体でまとめ：両方の立場にメリット・デメリットがあることを確認	•ワークシート(ディベート用フレーズ集)

3 本時	Pros and Cons of a Globalized World	他者の視点や立場を想像する力を養う 多文化理解・共生の感覚を体感する 自分の価値観に気づく	「気になる木」の写真を提示 個人で木の気持ちを想像 ペア・グループで共有 → 他者の意見や感じ方を比較 活動を人や文化に置き換えてロールプレイ 全体で学びを共有：文化や価値観の違いを理解	•「気になる木」の写真 •外国人観光客や留学生などのロールカード
4	Writing About Globalization	これまで学んだ内容を整理し、自分の意見を文章で表現する グローバル化のメリット・デメリットを論理的に書く	40分間ライティング 構成：Introduction → Body1(メリット) → Body2(デメリット) → Conclusion 書き終わったら、ペアで内容を簡単に共有(希望者のみ) 教師によるポイント確認：メリット・デメリットのバランス、表現の仕方	•ワークシート(Writing用紙)

【6】本時の展開(3時間)

本時のねらい 他者の視点や立場を想像することで、多文化理解や共生の感覚を体感し、自分の価値観にも気づく。

過程・時間	教員の働きかけ・発問および学習活動・指導形態	指導上の留意点(支援)	資料(教材)
導入(10分)	1. 導入 •現在の航空写真の提示(川崎市・アスンシオン市) → 空から見える景色の違いを考える → パラグアイの木の伐採に関する法律について触れる •「気になる木」の写真の提示 ①この木の周りを歩く人たちの視点 について話したあと、 ②木や電信柱の視点になってみる。 ペアで木と電信柱になって会話をしてみる。	1. 学習者の多様性に配慮(生徒の価値観や文化背景はさまざま。否定や偏見は避ける。「違う意見があっても当然」と伝え、安全な発言環境を作る。)	「気になる木」の写真 外国人観光客や留学生のロールカード
展開(20分)	2. 問題提起 「私たちはグローバル社会のなかに住んでいるが、自分と異なる視点を持つ人を見落としているかもしれない」 → 他者の視点になって考えてみよう	2. 発言のハードルを下げる(個人で考えてからペア・グループで共有する。)	
	3. ロールプレイ Role Play 1: コンビニでの出会い A: 日本人高校生 B: ネパールからの留学生 Role Play 2: 下足の文化 A: 中国人留学生 B: 大家さん	3. グローバル化・文化の学習につなぐ(木のワークが抽象的にならないよう、人や文化の例に置き換えてまとめる。「視点を変える力が異文化理解の第一歩」であることを明確に伝える)	

まとめ (15分)	「今から、A/Bそれぞれの役割とゴールを示したカードを配ります。そのカードの役になりきって、それぞれ会話をしてください。」		
	4.振り返り・まとめ		
	「今日の会話から、何に気づきましたか？」		
	「To understand globalized society, we need to... に続く言葉を自分で考えてみよう。」		

【7】実践を終えて(成果、課題など)

本時では、木や電柱になりきる導入活動や異文化ロールプレイを通して、生徒が「自分には見えなかった他者の視点」の存在に気づく姿が見られた。特に、木の側に立つ活動では、「自分の動線では邪魔でも、木にも存在理由がある」という発見が自然に生まれ、ワークシートには「自分の『当たり前』で世界を見ていた」と振り返る生徒もいた。

ロールプレイでは、相手の意図が分からず不安になったり、うまく話せず戸惑うなど、異文化間で生じる「ズレ」を身体的に理解する様子が確認できた。その体験から、「文化を押しつけない」「相手の背景に敬意をもつ」など、多文化社会に必要な態度を自分の言葉で言語化する生徒が多かった点は大きな成果である。

一方で、他者理解の重要性を言葉で述べること自体は容易であり、教師の発問によって「正解らしい答え」に寄ってしまう課題も残った。生徒が自身の経験や価値観と結びつけて「自分ごと化」できるよう、考えを深める時間や対話の場をさらに意図的に確保していく必要がある。

今回の実践は、生徒が自分の前提を揺さぶり、多文化共生に必要な想像力を育む第一歩となった。今後は、体験的活動と振り返りを組み合わせ、学びをより持続的に発展させる授業づくりを目指したい。

【8】学びの軌跡(児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)

①ロールプレイを通して感じたこと

- ・相手が何をしようとしているのか分からなかったのが、怖かった
- ・パニックになってしまった。
- ・今まで意識していなかったが、働く外国人は思ったより多いと感じた
- ・一方的に話し続ける状態にならないよう、会話のキャッチボールを意識する必要があると思った
- ・相手の文化を理解した上で、自分の主張を通すことの難しさを実感した
- ・会話のきっかけを作ることが難しかった

②「グローバル化した社会」を理解するために必要なこと

- ・自分たちの文化に敬意を示すこと(日本文化を失わないように)
- ・柔軟な思考を持つこと
- ・理解しようとする意志
- ・文化の否定はトラブルにつながるので、優しさをもって接すること
- ・多様性を受け入れること

- ・自分の価値観や文化を押し付けない
- ・相手が同じ価値観を持っていると思わない
- ・自分の主張をすべて受け入れてもらうのは難しいから、自分からも受け入れるようにすることで良い対話が望めるはず

【9】学校内で国際理解教育を広める取組

- ・高校1-2年生を対象に、定時制の「外国にルーツのある生徒」との交流イベントを企画・運営し、異なる背景を持つ人々が身近に生活していることを相互に理解する機会とする。
- ・放課後の学習日には、ALTとの「Discussion Salon」を企画・運営し、生徒が英語で臆せず意見を交わす場を提供する。これにより、生徒が自分の考えを持ち、発信する力を養い、多様な価値観を認め合う態度を育てる。

【10】学校外で国際理解教育を広める取組

川崎区教育文化会館の識字学級「にほんごひろば」において、日本語を学ぶ外国出身者の学習支援に取り組んでいる。そこでは、言語面でのサポートに加え、学習者の文化や生活習慣を知ること、互いの理解を深める活動を行っている。また、自身がボランティアとしてこのような活動に関わっていく中で学んだことを周囲に発信し、差別や偏見のない社会づくりに貢献していきたいと考えている。

【11】今後、続けていく活動について

9および10で述べた校内外の国際理解教育の取組は、来年度以降も継続していく予定である。校内では、今年度の職員会議で活動内容を共有したことをきっかけに、関心を持った教員が実際に授業を見に来てくれる場面も増えてきた。こうした動きが一過性のものに終わらず、生徒や教員にとって国際理解教育が「特別な行事」ではなく「学校の日常」として定着していくことを目指している。

校外での識字学級での学習支援については、多文化背景をもつ学習者と直接関わる経験を重ねることで、自身の国際理解教育に対する視野を広げ、授業づくりに生かしていきたい。

[参考にしたサイト等]

・グローバリゼーション関連の質問集
Council on Foreign Relations, "Globalization High School Questions",
<https://education.cfr.org/teach/essay-and-discussion-questions/globalization-high-school-questions>


・生徒への提示資料として

【主教材】
啓林館『ライティングメソッド』Lesson4 類題


【Reading】(予習材料:必要に応じて)
National Geographic, "Effects of Economic Globalization",
<https://education.nationalgeographic.org/resource/effects-economic-globalization>

[参考資料]


- 1: 本時で使用したスライド
- 2: 本時で使用したワークシート
- 3: 本時で使用したロールカード



Kawasaki city, Kanagawa, Japan



Asuncion, Paraguay





Asuncion, Paraguay




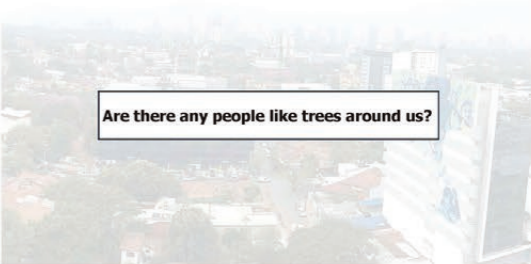
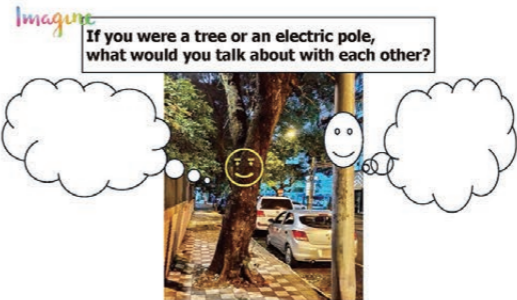

Tokyo, Japan

In Paraguay, there's a law that doesn't allow people to cut down trees easily.

Then, let's look at the next picture.



Then, let's look at it from a different angle.



Now, let's put ourselves in the shoes of people with different perspectives and think about how they might feel.

1. Convenience Store Encounter

A – Japanese High School Student

- You buy coffee and bread at the same store every morning.
- You always see the same clerk but never talk.
- You're curious about their life and language.

Goal: Start a friendly conversation and learn something new.

Sample conversation

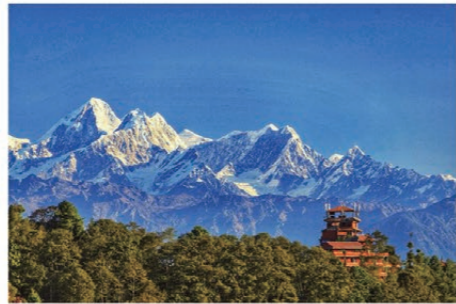
"Good morning! You're always here when I come."
 "You speak Japanese really well!"
 "Thank you! I'm still learning."
 "Where are you from?" / "I'm from Nepal."
 "Oh, I want to visit someday. What's it like there?"
 "It's beautiful! **The mountains** are very tall."
 "That sounds amazing. Have a good day!"
 "You too! See you tomorrow."

1. Convenience Store Encounter

B – Clerk from Nepal

- You work night shifts and send money to your family.
- You enjoy meeting customers but feel shy about your Japanese.
- You're happy when someone talks to you kindly.

Goal: Talk naturally and share one detail about your home or dream.



2. The Shoes and the Goodbye

A – Chinese Exchange Student

- You study at a Japanese university and rent a room in a local house.
- In your country, you usually **keep shoes on inside the house.**
- You didn't notice** that your host cares about the floor.
- You're packing to move out when the owner suddenly comes in.

Goal: Stay polite and calm, and show that you're willing to understand the custom.

Sample conversation

"Oh, I'm sorry! **I didn't know the rule.**"
 "In my country, **we don't take off shoes at home.**"
 "That's interesting.
 In Japan, we always do. It's a way to **show respect.**"
 "Thank you for telling me. I'll clean it before I go."
 "No problem. I'm glad you stayed here. Please come again someday."

2. The Shoes and the Goodbye

B – Japanese House Owner

- You have rented a room to a foreign student for one year.
- The room was fine, but you often saw footprints on the floor.
- Today, **the student is leaving, and you want her to clean up before she goes.**
- You feel nervous to say it directly but want to keep a good relationship.

Goal: Ask the student kindly about cleaning and talk about Japanese customs without being angry.



Worksheet: Seeing Through Others' Eyes – Role Play Reflection

Class () No. () Name ()

Step 1. What Happened in the Role Play?

1. Which conversation did you watch or join? (Circle your answer)

- ① Convenience Store Encounter [I watched / I joined]
- ② The Shoes and the Goodbye [I watched / I joined]

2. What was the situation?

①

②

Step 2. Feelings and Perspectives

What did you notice through this role play? [Key words: communication and respect]

Complete the sentence:

To understand globalized society, we need to...

1. Convenience Store Encounter

A – Japanese High School Student

- You buy coffee and bread at the same store every morning.
- You always see the same clerk but never talk.
- You're curious about their life and language.

Goal: Start a friendly conversation and learn something new.

1. Convenience Store Encounter

B – Clerk from Nepal

- You work night shifts and send money to your family.
- You enjoy meeting customers but feel shy about your Japanese.
- You're happy when someone talks to you kindly.

Goal: Talk naturally and share one detail about your home or dream.

2. The Shoes and the Goodbye

A – Chinese Exchange Student

- You study at a Japanese university and rent a room in a local house.
- In your country, you usually keep shoes on inside the house.
- You didn't notice that your host cares about the floor.
- You're packing to move out when the owner suddenly comes in.

Goal: Stay polite and calm, and show that you're willing to understand the custom.

2. The Shoes and the Goodbye

B – Japanese House Owner

- You have rented a room to a foreign student for one year.
- The room was fine, but you often saw footprints on the floor.
- Today, the student is leaving, and you want her to clean up before she goes.
- You feel nervous to say it directly but want to keep a good relationship.

Goal: Ask the student kindly about cleaning and talk about Japanese customs without being angry.

 <h1 style="text-align: center;">SAKI HORIYA</h1>				
実践者	氏名	堀谷 沙貴	学校名	横浜市立みなと総合高等学校
	担当教科等	地歴科	対象学年(人数)	2年(240名)
	実践年月日もしくは期間(時数)	2025年12月(2時間)		

【実践概要】

【1】実践した教科

地理総合

【2】単元(活動)名

国際理解と国際協力「移民の歴史と人々の生活の関わりーラテンアメリカー」

【3】本時の授業タイトル

**「私の願い」～移民ってどんな人？
相手を知ろうとすると、面白い～**

【4】単元設定の理由・意義と評価基準について

「移民」に対するネガティブな報道が多い。実は身近で、私たちの生活に関係が深い移民とその歴史について考えてほしい。移民の背景に思いを馳せることで、多文化共生の姿勢を育む足がかりとしたい。

また、授業の中で「海さん」のストーリーを考えたり「移住する」つもりになって考えたりすることで、自分とは異なる立場の他者の心情を想像できる人になってほしい。ワークシートの記述やグループワークでの発言をもとに、地理的事象と歴史的背景、現代の諸課題のつながりを学ぶ主体的な態度等を見取る。

【5】単元計画(全2時間)

時	小単元名	学習のねらい	学習活動	資料など
1 本時	私の願い	他者の願いの背景にあるストーリーを想像し、人々の移動とその影響について考える	導入 ：海さんの「ぼくは、にほんに いきたいです」という短冊の願いを見て、海さんのストーリーを想像する 展開1 ：日系人の定義を知る 展開2 ：教科書から移民に関する記述を探し、関連する語句や思い浮かぶことを書き出す まとめ ：もし自分が〇〇に移住することになったら？を想像し、率直な感想や日本から持参したい物などを考え、クラスで共有する	ワークシート スライド (一部にJICA作成のyoutube画像を使用)

2	日系人の歴史	日系人の歴史を学び、今日の日本の移民政策の現状について考える	導入 ：日本⇄海外へ移住した人々の思いと、前時に記入した感想には共通する思いがあるであろうことを確認する 展開1 ：日系人の歴史についてレクチャー 展開2 ：日系人にまつわる写真からグループごとに印象に残る1枚を選び、気づいたことや考えたことを記述する(フォトランゲージ) まとめ ：移民政策指数のグラフを見て、現状について思うことや、自分ができる小さなアクションを考え、記述する 最後に ：海さんの短冊に戻り、2時間の授業で考えたことを振り返りとして記入する	ワークシート スライド (一部にJICA作成のyoutube画像を使用) ふせん
---	--------	--------------------------------	---	---

【6】本時の展開(全1時間)

- 本時のねらい**
- ①移民の存在を知る
 - ③移民のもたらすものを考える
 - ②移民のストーリーを想像する
 - ④移住することを想像する

過程・時間	教員の働きかけ・発問および学習活動・指導形態	指導上の留意点(支援)	資料(教材)
導入 (15分)	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">Q1. 海さんのストーリーを考えよう</div> →ワークシートに記入 →グループ内で共有 →クラスで共有	<ul style="list-style-type: none"> どのようなストーリーも正解。自由に発想させたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 共通教材 個人ワークシート スライド
展開 (20分)	●レクチャー：日系人とは <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">ワーク. 移民に関連するものを探そう</div> →ラテンアメリカ/アメリカ合衆国を例に教科書の記述から、移民に関連する事象を見つけ、ワークシートに記入 (例)ラテンアメリカの場合：言語、混血、リオのカーニバル、キリスト教など →【移民は〇〇〇をもたらしてきた】空欄にあてはまる言葉を考えさせる →クラスで共有	<ul style="list-style-type: none"> 様々な地域、時代に、人々の移動が何をもたらしてきたか着目させる。 経済、文化、魅力など身近な様々なところに移民の影響があることに気づかせたい。 	<ul style="list-style-type: none"> グループで1枚のワークシート 教科書
まとめ (15分)	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">Q2. 〇〇に移住することになったら？</div> →自分が移住することになったら…？ 楽しみ、不安、率直な感想、持参したいものなど、なるべく具体的に想像する →グループ内で共有 →クラスで共有 →ふりかえりとして本時で考えたことを記入	<ul style="list-style-type: none"> 日系一世、今日本に移住している人々の気持ちを想像することにつなげたい。 他者の背景に思いを寄せることが多文化共生のヒントになることに気づかせたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 個人ワークシート

【7】実践を終えて(成果、課題など)

海さんのストーリーを考え、移住者の気持ちになり、日系人の歴史を追体験することで生徒の「移民」に対するイメージは変容したように思う。生徒たちは、彼らにとって遠い存在だった移民や日系人について共感的に学ぶことで自分事として捉えることができた。また、外国にルーツのある生徒にとっては自身や家族について考える機会となり、そうでない生徒もクラスの留学生や、本校近くにある中華街に住む人々など、自分の身の回りに思いを馳せるきっかけとなった。

留意したいのは、外国にルーツのある生徒が在籍する場合には様子を見て必要な配慮をすることと、移民に対するネガティブな意見が表出する可能性があることである。授業後の検討会では、ネガティブな意見や報道について、頭ごなしに否定するのではなく、事実を調べる時間を設けたり、授業で取り上げて共に考える機会をもつことも必要なのではないかと意見があった。

【8】学びの軌跡(児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)

※生徒が記述したワークシートより

- ①海さんのストーリー：「中国の子」「小学生くらい」「小さい頃に日本にいて、生まれてすぐ海外に引っ越した」「親の転勤で海外にいる」「日本以外の場所に住んでいる日本人」
- ②移住することになったら？：「友達できるかな」「言語の不安」「部活を辞めなきゃいけない」「大学はどうすればいいのだろう」「新しい自分が見つかりそう」「日本食を持っていきたい」「嫌だ」
- ③移民政策指数について：「(スコアが低い)反差別、教育、政治参加は、全部自分にも関係している」「交流の場が必要」「差別は、移民に対する知識の少なさも原因の一つ」「外国のいろんな文化が混ざって日本文化も作られているんだな」「日本語が分からないと低賃金や生活に影響が出るのでは」「私が幼いときは(外国出身の)父も私も人目をすごく浴びていた。移民に優しくして日本！」「誰もが不満なく過ごせることが必要」「私たちも英語を頑張ったほうがいい」「留学生は日本語すごく上手だなんて思うけど、たまに意思疎通が難しい時があるから、もっと寄り添ったほうがいいと思った」「自分のバイト先でも〇〇人の人は少し下に見られている感じがする」「日本語について習う場所を増やせばいい」「別の地域から来る人に慣れない気持ちもあるかもしれないが、1番不安を感じるのは移民ではないか」

【9】学校内で国際理解教育を広める取組

- ・文化祭にて、在校生・教職員・来場者向けにパラグアイや日系人について展示を行った。(継続中)
- ・今回の授業を、同じ科目を持つ他の教員にも実施していただいた。
- ・有志のハワイ研修の事前学習にて、日系人についての学習会や JICA 訪問を実施。(対象 11 名)
- ・今回の授業をアレンジし、1 年生の必修科目である歴史総合で実施。(対象 240 名)
- ・職員研修にて、国際理解教育や JICA の取組について職員と考える機会をもつ予定。(対象 60 名)
- ・3月の校内国際理解行事にて、国際理解や日系人について生徒と考えるワークショップを実施予定。

【10】学校外で国際理解教育を広める取組

- ・12/6 横浜国大藤掛ゼミ報告会に参加、意見交換
- ・1/18 JICA 主催国際理解教育/開発教育教員セミナー参加

【11】今後、続けていく活動について

- ・授業で取り上げる。今回は地理総合、歴史総合の授業で扱ったが、日本史・世界史・政治経済など社会科なら様々な科目で扱える。今回、生徒の意見にもあったが、移民や日系人を授業で扱うことは少ない。少しでも触れること、知る機会を作ることが必要だと感じている。
- ・掲示や展示。多くの生徒が集まるラウンジや、社会科職員室前の廊下などに掲示を続ける。生徒だけでなく、教職員や保護者も見してくれる。
- ・周りに勧める。同僚に、撮ってきた写真や感じたことをシェアすることで、仲間が増える。JICA の研修にも興味を持ってチャレンジする人が増えれば、還元も広まるし、コラボもできる。

※教材に使用したスライドには、以下からの写真・イラストを引用

- ・パラグアイ日系アイデンティティセンター HP 「NIHONGOGAKKO」ページ (<https://identidadnikkei.org.py/ja/>)
- ・外務省「日本と中南米をつなぐ日系人」パンフレット (<https://www.mofa.go.jp/mofaj/files/100824565.pdf>)
- ・JICA 国際協力機構「【パラグアイ・移民】パラグアイへの日本人移住の歴史」youtube 動画 (<https://www.youtube.com/watch?v=lBBsCh-jx3w>)
- ・公益財団法人日立財団「連載 統計から読み解く移民社会③日本における移民の社会的統合」(<https://www.hitachi-zaidan.org/global-society-review/vol3/commentary/index.html>)

- [参考資料]
 1: 本時で使用したスライド
 2: 本時で使用した個人ワークシート
 3: 本時で使用したグループワークシート

「私の願い」
名前:



番号:

Q1. 海さんはどんな人？ ストーリーを考えてみよう✍

だから、海さんは日本に行きたいと願っ

Q2. 「もしもあなたが…」 なるべく具体的に、想像して書いてみよう✍

★ふりかえり・・・ 気がついたこと／ふと考えたこと／他者の意見から学んだこと

私の願い
想像力を働かせる
1時間にしよう♪

Q1. 海さんの
ストーリーを
想像しよう



日系人
…日本から外国に移住した日本人の子孫

世界の統計日系人の数は推計... 約250万人

母国全体の統計日系人の数は推計... 約250万人

世代をつなぐ、パラグアイは1世、2世、3世、4世も

「おじいちゃんは、日本からパラグアイにきました。」



私の名前は高橋アキです。



移民に関連することを
書けるだけ書いてみよう✍

移民が
もたらした
ものは？

教科書を参考に...
★ラテンアメリカ P104~
★アメリカ合衆国 P130~
・自分の担当エリア



時間割

月 水 金	
1時間目	13:35 ~ 14:20
2時間目	14:40 ~ 15:25
土	
1時間目	9:00 ~ 9:45
2時間目	9:55 ~ 10:40
3時間目	10:50 ~ 11:35
4時間目	11:45 ~ 12:30





ASOCIACION JAPONESA DE ENCARNACION



祝 敬老の日



The students display all their grace and creativity.



Q2. あなたが移住することになったら？

想像しよう✍
あなたが、家の都合で〇〇に移住することに！あなたは、どんなことを考えるだろう。

率直な感想、嬉しいこと、困ること、楽しみなこと、不安なこと、気になること、持っていきたいもの、〇〇に行っても食べたい料理、〇〇に行っても続けるであろう習慣...
具体的に想像してみよう

ここから2時間目

移民の歴史

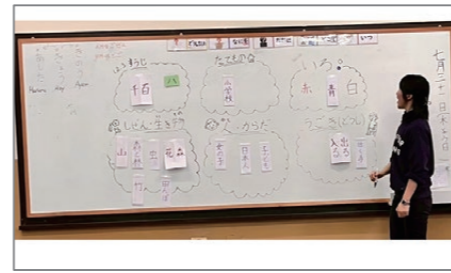
1885(明治18) ハワイ移民
 ・まとうきびなどで農作業 23万人
 ・1898(明治31)年、ハワイ、アメリカに併合

1880's後半〜 北米へ
 ・より賃金の高い北米に移住増加
 ・日本人は安価な労働力として働く
 ・日露戦争後、日本人排斥運動

1930's〜 満州移民増加 27万人
 1910's〜 中南米へ 24万人
 ・アメリカに代わる移民先
 ・ブラジルのコーヒー産業
 ・1924年アメリカ、移民法

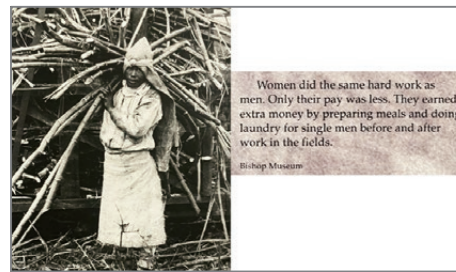


Women did the same hard work as men. Only their pay was less. They earned extra money by preparing meals and doing laundry for single men before and after work in the fields.
 Bishop Museum



日本の倫理的価値観 VALORES JAPONÉSES

尊敬	Respect	規律	Order
誠実	Honesty	忍耐	Patience
責任	Responsibility	信頼	Trust
感謝	Gratitude	調和	Harmony
忠実	Loyalty	謙虚	Modesty



南米への移民募集のポスター (大正時代末期)



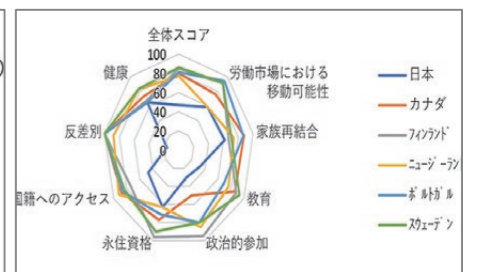
最後に向かったのがパラグアイ
 1952年、パラグアイ政府によって創設された「チャベス移住地」に日本人が入植。



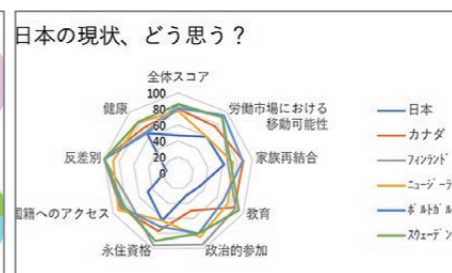
Why is my loyalty questioned?
 OKAGE SAMAMA DE
 I am what I am because of you



みんなで考えたいこと



ちなみに・・・
 外国に住む日本人 129万人 (2024)
 日本に住む外国人 377万人 (2024) 総人口の3%



Q1. 海さんのストーリーを想像しよう



大豆輸出力 世界3位 生産量も世界6位! (2023年)

心はひとつ
 Corazones Hermanados
 パラグアイ国民は日本を応援します。
 被災地支援 長期関係存続

次ページ：おまけ資料
 ●オーストラリアの職業訓練校の様子 (作者撮影)



ご協力いただいた皆様

- ・かながわ開発教育センター (K-DEC)
- ・小野行雄氏 (かながわ開発教育センター)
- ・公益財団法人海外日系人協会
- ・NPO 法人ABCジャパン
- ・JICA 横浜教師海外・国内研修過年度参加者の皆様
- ・JICAパラグアイ事務所

スタッフ

- ・JICA 横浜 鈴木理紗
- ・株式会社メディア総合研究所 (2025 年度運営事務局)



独立行政法人国際協力機構
横浜センター (JICA 横浜)

〒231-0001 横浜市中区新港2-3-1

Tel : 045-663-3253 (直通)

Fax : 045-663-3265

E-mail : yictpp@jica.go.jp

<https://www.jica.go.jp/yokohama/>

